

岐阜縣立農事試驗場編
經濟試驗並に調査成績輯録 業績
第一報
昭和十一年三月刊

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5

始



14.2₁
884

昭和十一年三月

經濟試驗並に調査成績輯録

業績第一報（種藝部業績第一號）

岐阜縣立農事試驗場

14.21
881

時世の進運に伴ひ生産技術の改善と相俟り經濟栽培或は經營の
合理化を圖る事の急務なるを認め當場大正十四年移轉擴張を機
こも場内に特別會計を以て經濟試驗地を設置し爾來耕種並に經營
に關する部分的或は綜合的各種經濟試驗を施行し其の都度當業者
にその趨向を示し來れり

而して農場収入を以て經理をなす自給自足の立前に依つて試験
地を經營し來れる關係上充分なる設備肥料勞力を缺く憾ありしを
以て其の求め得た數字は嚴密な意味に於て多少不満足の點あるも
經營の實際を辿る道標としては却つて應用價值が多いものと信ず
るので其の主要なるものを特に取纏め若干の考察を加へて上梓し
當業者の參考に供せんこす。

昭和十一年三月

岐阜縣立農事試驗場長 間瀬鉦太郎



經濟試驗並に調査成績輯録

[農林技手 市橋 磯吉]

目次

所要勞力並に其の分配, 圖表

稻, 大麥, 柿, 茶 卷頭

稻作に關する經濟試驗成績

水稻耕種標準	1
稻作期間中の氣候並作況概要	2
直播移植栽培經濟比較試驗	3
多肥少肥栽培經濟比較試驗	5
自給肥料施用の經濟比較試驗	6
除草法經濟比較試驗	8
植付株數經濟比較試驗	11
生産費節減綜合經濟比較試驗	13

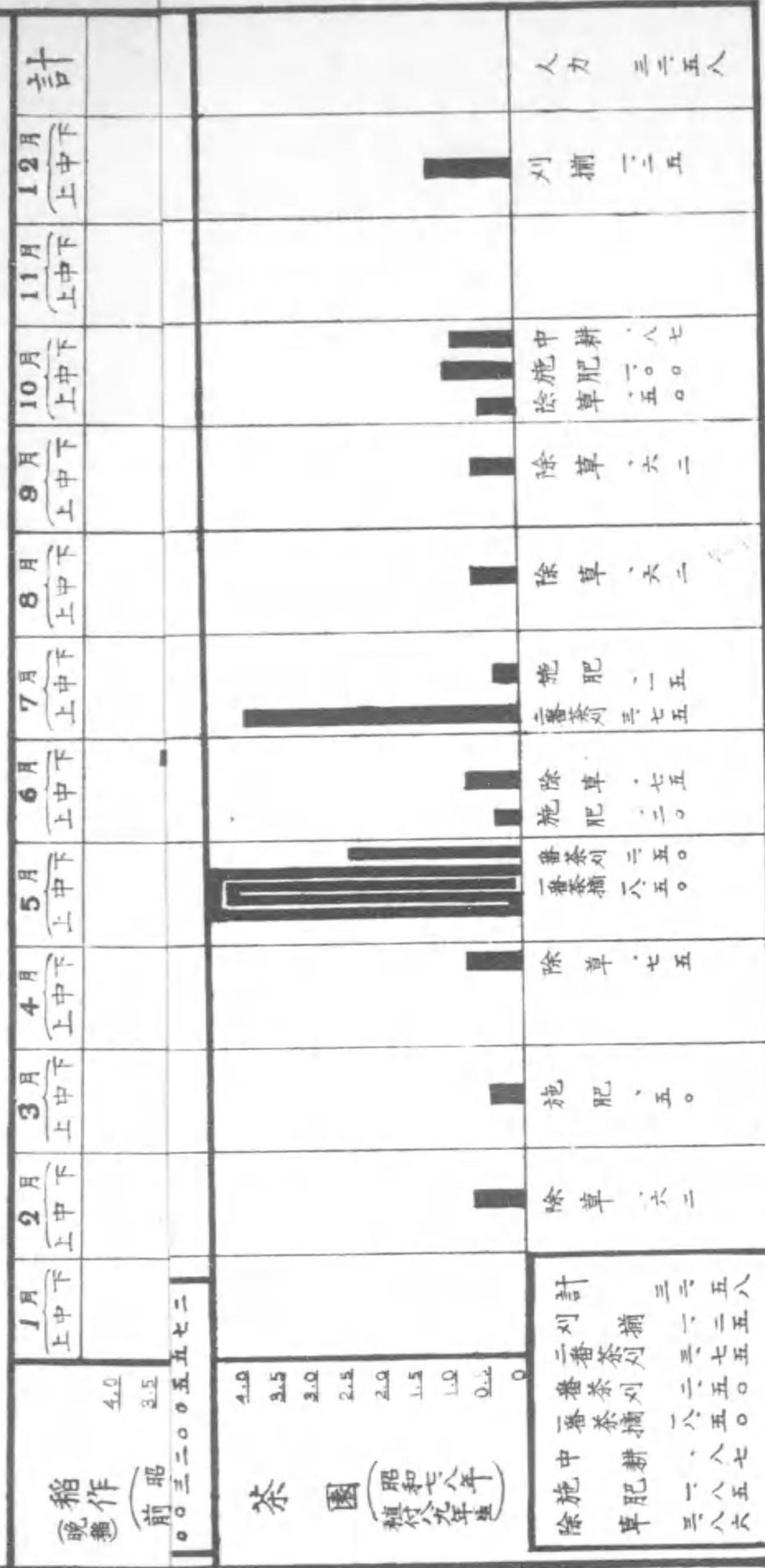
水田及畑作經營に關する綜合的經濟試驗成績並に 柿園及茶園經營經濟調查

水田三毛作經濟試驗	15
水田裏作經濟試驗	21
畑作經營經濟試驗	24
柿園經營經濟調查	29
茶園經營經濟調查	32

主要作物直接生産費資料調查 (昭和八年)

水 稻	35
水田裏作	35
小麥, 菜種, 甘藍, 葱頭, 蠶豆, 苺	
畑 作	38
冬 作	38
裸麥, 蠶豆, 甘藍	
夏 作	40
胡瓜, 茄子, 蕃茄, 西瓜, 南瓜, 里芋, 甘藷	
秋 作	44
白菜, 葱, 大根ノ一, 大根ノ二, 蒺藜草	
柿 (第八年目, 第九年目)	46
茶 (第八年目, 第九年目)	47

反當所要勞力及び其の分配



所
程

小
村

主

稻作に関する經濟試驗成績

水 稻 耕 種 標 準



整地 四月中旬紫雲英を刈取り乾草細切して撒布し深さ三寸位に耕起をなし以後二・三回小切をなし土塊を粉碎し播種二三日前灌水代播をなし泥土の沈澱するを待ち排水して床巾四尺溝八寸巾の短册床作成す

播種 床面の稍締まるを待ち播種し種子を播込み其上へ川砂坪當四升又は菜灰を撒布し徐々に灌水す

播種期五月上旬播種量坪當一合五勺 浸種日數五日間

肥料	種類	用 量	用 法	含有成分		
				窒素%	リン%	加里%
坪當り	紫雲英(生)	1,000	播種二週間前半乾撒込	4	—	3
	石灰	100	紫雲英と同時に施用	—	—	—
	棉實粕	100	配合して播種前床面へ撒布し混合	6	3	1
	過磷酸石灰	40	半量元肥	—	6	—
	菜灰	150	苗二寸伸長ノ時追肥	—	4	7
	計			10	13	11

管理 播種後三日目頃より二三回實干を行ふ苗五寸内外に伸長する頃迄は晝間時々落水し夜間及寒冷日雨天等は稍深水とし以後は晝夜共極めて淺水とするか或は溝のみに水を湛へ置く程度とし苗の強剛なる發育を圖る發芽後除草間引補植害虫驅除等適宜之を行ふ

二 本 田

整地 紫雲英作付田は收穫後半乾細切撒布して平起しを行ふ麥其他の裏作栽培地は六月上・中旬撒返しを行ふ此際紫雲英又は堆肥を撒込む植付前金肥を撒布し代播を行ふ整地は概ね牛馬耕に依る

肥料 反當

肥料名	用 量	用 法	含有三成分			備 考
			元肥	止肥	元肥	
紫雲英生	300	—	1,500	750	1,500	堆肥及石灰は撒返しの際
石灰	20	—	—	—	—	
棉實粕	5	5	270	120	100	其他の元肥は代播前に施用
硫酸	1.5	1.5	300	—	—	
骨粉	4	—	160	880	—	止肥は七月下旬一回に施用す
過磷酸	3	2.0	—	450	—	
硫酸加里	2.5	1.5	—	—	1,200	
計			2,380	2,200	2,485	

挿秧

挿秧期 六月二十七・八日 植付株數坪當六〇株(一尺×六寸) 一株二・三本植

除草

第一回 七月上旬 轉土器除草 第二回 七月上旬 手取除草

第三回 七月中旬 轉土器除草 第四回 七月下旬 手取除草 止草

灌排水

挿秧當時は植付に便なる程度の淺水とし植付後より活着迄は稍深水とし活着後は淺水とす

止草後二・三日落水干田を行ひ穂孕期より出穂開花期は充分灌水し傾穗期に至り落水す

收穫

黄熟期に至り刈取乾燥調製す

稲作期間中の氣候並に作況概要 (豊凶考照試験より)

大正拾五年 (昭和元年)

苗代期中並に本田期中の氣候適順高温多照なりしたため生育良好にして前年に比し一割六分の増収をなせり

昭和二年

苗代期中並に本田期中の氣候適順気温高く生育良好にして平年に比し二割以上の増収を示せり

昭和三年

苗代期中並に挿秧後の氣候適順にして生育良好なりしも七月下旬並に八月上旬の氣候概して不順なりしたため分蘖を阻害され八月中旬より氣候適順となり生育も亦恢復し前三ヶ年平均収量に比し早中稲は一割近くの増収を示せるも晩稲に於ては却つて八分餘の減収を示せり

昭和四年

苗代期中氣候適順なりしたため苗の成育良好にして挿秧當時水不足の感ありたるも七月上旬降雨あり同月中旬以降旱天持續し生育良好なり然れども九月に入りてより曇天低温連續したるを以て出穂成熟共に遅延したために早稲に於ては一割餘の増収を示せるも中晩稲に於ては反對に一割餘の減収を示せり

昭和五年

苗代期中並に挿秧後の氣候適順なりしを以て苗の生育並に挿秧後の生育良好に經過し九月中旬一時気温低下せしため晩稲に於ては出穂多少遅延せるも其後の天候概して良好充實可良にして中晩稲は平年作に比し稍良なり

昭和六年

苗代期中に於ける氣候概して良好にして苗の生育比較的順調なりしも挿秧後七月中下旬に於ける天候不良にして温度低く曇雨天持續せしため生育大いに阻害せられ其後八月に入りてより天候恢復し高温多照なりしたため生育を挽回し九月下旬一時低温なりしも登熟概して順調に行はれ早稲に於ては七月中下旬に於ける天候不良の影響を挽回するこゝを得ず平年に比し作柄不良を示したるも中晩稲は平年作なり

昭和七年

挿秧後低温にして曇雨天多かりしたため生育不良なりしが七月中旬以後天候良好となり高温にして晴天打續きたるため生育大いに恢復し二百十日頃の生育状態は平年作に比し稍良と認めらるゝに至れり然るに出穂期に至り低温多雨となり出穂遅延し十月に入りてより天候回復したるも気温前低く日照時少く爲に登熟遅く成熟遅延せり且つ成熟期に於ける天候不良なりしたため穂首稻熱病の發生多く早中生稲は作柄不良晩稲に於ても平年に比し稍不良なり

昭和八年

挿秧當時旱天持續せるため稲生育を阻害せられたるも七月中旬より時々降雨あり灌溉水に不足することなく且つ多照高温なりしたため生育大いに恢復し其後成熟期に於ける天候良好なりしたため登熟極めて順調に行はれ病虫の被害も少く平年に比し中晩稲共二割近くの増収を示せり

直播移植栽培經濟比較試験

試験年次 大正十五年より昭和四年迄四ヶ年

目的

直播對移植栽培の勞力並に収量等經濟關係を比較對照し稲作經營上の參考に資せんます

方法

供試田 各一反歩

供試品種 大正十五年 昭和二年 昭和三年=神力二三號 昭和四年=京旭

耕種便概

移植栽培は當場普通標準により五月上旬水苗代に下種育苗せるものを六月下旬挿秧す

直播栽培

1. 整地 代播の順序方法は移植栽培法に準ず

2. 畦幅及株間

移植栽培 畦間一尺 株間六寸

直播栽培 畦間一尺 株間一尺

3. 植付本数又ハ播種量

移植栽培 植付本数 一株 二・三本植 一坪六〇株

直播栽培 整地後淺水に保ち鎌を以て畦間一尺に播溝を切り五月中旬一株七・八粒宛一坪當り三十六株に點播す 反當播種量三升

4. 管理

移植栽培 普通の方法に依る

直播栽培 播種後は常に淺水を湛へ鳥害を妨ぎ發芽伸長して其の憂なきに至れば更に淺水とし時々排水して苗を強剛ならしむ播種後三十日を経て畦倒し及株直しを行ふ即ち畦切の際出來たる溝及畦を掻き均して稻の根際に土を寄せ平垣になすこゝ同時に一株三・四本を残し間引をなし他の株絶への場所へ補植を行ふ

爾後は移植の場合と同一の取扱をなし三・四回除草を行ふ

5. 肥料反當

肥料名	用量	施用法		含有三成分		
		元肥	追肥	窒素	磷酸	加里
堆肥	500	500	—	2.500	1.250	2.500
石灰	30	30	—	—	—	—
過磷酸石灰	10	5	5	—	1.500	—
大豆粕	5	—	5	330	061	080
硫酸加里	2	—	2	—	—	960
計	—	—	—	2.830	2.811	2.540

試験成績

1. 玄米反當収量

	大正十五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	四ヶ年平均
直播	石 2.484	石 2.368	石 2.424	石 2.523	石 2.599
移植	2.560	3.085	2.565	2.700	2.727

2. 反當所要勞力

	大正十五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	三ヶ年平均
直播	?	21.12	20.18	25.10	22.13
移植	?	18.47	17.21	22.40	19.36

3. 反當勞力の分配

	五月	六月	七月	其他ノ月	計	
直播	昭和二年	3.59	2.20	6.56	8.77	21.12
	昭和三年	3.54	2.14	5.47	9.03	20.18
	昭和四年	4.87	2.62	4.89	12.72	25.10
	平均	4.00	2.32	5.64	10.17	22.13
移植	昭和二年	1.57	4.73	8.09	9.08	18.47
	昭和三年	2.34	2.81	3.00	9.06	17.21
	昭和四年	1.55	4.76	2.27	13.82	22.40
	平均	1.82	4.10	2.79	10.65	19.36

4. 反當勞力作業別の差異

	苗代勞力	播種	移植	畦倒株直	除草	灌排水	其他勞力	計
直播	昭和三年	—	1.29	—	1.93	5.39	.79	10.48
	同四年	—	.87	—	2.59	6.31	1.49	13.84
	平均	—	1.08	—	2.26	6.90	1.14	12.16
	昭和三年	1.06	—	2.03	—	3.12	.49	10.51
移植	同四年	1.06	—	2.75	—	3.86	.99	13.74
	平均	1.06	—	2.39	—	3.49	.74	12.12

摘要

試験成績に徴すれば

1. 収量は移植栽培の方直播栽培に優る
2. 労力は却つて直播栽培の方移植よりも所要多し
3. 直播は最も繁忙時期たる播種勞力を省略し得六月の所要勞力約半減し得られる利あるも除草勞力は全期を通じ移植区より多く従つて總勞力に於ても移植栽培に比し稍多し
4. 直播は五月の所要勞力多く養蠶(春蠶)と勞力關係圓滑ならざる憾あり

概評

1. 水稻大經營の場合播種期の勞力調節を計る手段として適宜直播法を加へ經營するは得策ならんも普通經濟的價値は移植栽培を以て可とするが如く疑はる
 2. 直播は初期の生育旺盛に過ぎ成熟期に於て多少うらこけの感を呈す殊に地力の劣る田に於て一層甚だしき傾きあるを以て豊沃なる土地を選び實施するに妥當認めらる尙年々同一の場所に於て行ふ事は地方の消耗を來し収量遞減の傾きあり
 3. 穂首稻熱病豫防の目的を以て直播栽培或は泥子苗栽培により生育の促進出穂期當時の稻の硬化及び作物体内に於けるC/N比率(含窒素物と炭水化物との比率)調製により耐病力を増進し被害を軽減し得たる實例所々に見聞す
- 以上の諸點に鑑み直播栽培を適宜農法改善上に織込む事は將來妙味ある問題であらう

多肥少肥栽培經濟比較試験

試験年次

大正十五年 昭和二年 昭和三年の三ヶ年

目的

多肥少肥との場合に於て水稻収量の差異及び其の經濟關係を知らんとす

方法

供試品種 大正十五年及昭和二年……晚交三三號 昭和三年……京旭

供試田 各一反歩

肥料設計

區別	肥料名	反當量	含有三成分			施用法
			窒素	磷	加里	
多肥區	雲英(生)	500	2,000	.450	1,850	元肥
	錫粕	10	.880	.590	.050	元肥七ノ追肥三ノ
	過磷酸石灰	15	—	2,250	—	元肥八ノ追肥七ノ
	硫酸加里	3	—	—	1,410	元肥一ノ追肥二ノ
	石灰	35	—	—	—	元肥
	計	—	2,880	3,290	3,300	
少肥區	雲英(生)	300	1,200	.270	1,100	元肥
	錫粕	3	.600	—	—	元肥一ノ追肥二ノ
	過磷酸石灰	4	—	.600	—	追肥
	硫酸加里	0.5	—	—	.240	追肥
	石灰	10	—	—	—	元肥
	計	—	1,800	.870	1,340	

耕種概要 (當場標準に依る)

試験成績

年度別	試験區別	反當收量				肥料代	差引額
		支米容量	概	穀	見積金額		
大正十五年	多肥區	2,612	6.3	191	23.8	105.93	22.66
	少肥區	2,375	2.7	169	19.9	95.73	9.68
昭和二年	多肥區	3,254	3.9	219	24.4	106.22	22.61
	少肥區	2,827	3.3	168	21.2	91.54	9.14
昭和三年	多肥區	2,667	6.3	179	20.0	80.14	21.44
	少肥區	2,585	4.8	171	19.0	76.06	8.83
三ヶ年平均	多肥區	2,844	5.5	196	22.7	97.43	22.21
	少肥區	2,579	3.6	169	20.0	87.77	9.21

備考 生産物及肥料代單價年別表

年度別	生産物				肥料代 (十圓)				
	支米	概	穀	見積金額	雲英	錫粕	硫酸加里	石灰	過磷酸
大正十五年	37.50	30	28.6	.30	5.38	6.20	2.07	6.76	.70
昭和二年	30.00	30	30	.20	6.89	5.83	1.61	5.52	.47
昭和三年	27.00	27	28	.20	6.18	5.12	1.45	4.80	.47

摘要

一般農家の慣行を加味せる本肥料設計に依り相対的多肥の場合及少肥栽培に於ける經濟關係を調査せる成績に依れば

1. 多肥栽培は概ね収量の増加を示すは當然であり三ヶ年平均に於て約一割(二斗六升五合)の増収である
2. しかしながら肥料を増加するに従ひ作物健康を害さない様な肥効の穩健なるものを選び施肥の萬全を期さねば一朝天候不良に相遇せる年柄に於ては思はざる失敗を招くものである斯様に肥料の選擇に留意し合理的配合をなさんとすれば勢ひ肥料代金の所要が増するは當然である
3. 肥料代金を差引たる利益は必ずしも多肥栽培が得策ではなく年に依つては却つて經濟上の損失を來すことがある
4. 一般に天候順調なる年に於ては多肥の効果を顯はすも然らざる年柄に於ては却つて少肥が有利安全なる傾向あり
5. 品種の特性に留意し耐肥性に鑑み施肥量の多少を決定せねばならぬ事は本試験に於ても其の一端を窺はれる

概評

水稻施肥量は氣候、土質、品種、肥培、管理等各種の條件に左右せらるゝは勿論であつて一概に其の適量を判斷するは難事に屬するも當場水稻窒素適量試験の成績に依る品種別反當窒素極量は八ツ倉一〇五百匁、郡登、神力廿三號二〇、神力十一號交配三三號三〇、雙國三〇五〇〇匁平均三〇内外なるも經濟的施用量は平均二〇匁内外に過ぎず而して經濟的見地より多肥少肥何れが有利なるやは速断を許さざる處であるが本試験の範圍内では氣候順調なる年柄に於ては多肥の効果を認めらるゝも然らざる年に於ては寧ろ控目に施肥するが安全且有利で多肥栽培により増収を齎する前に先づ深耕、自給肥料の増施等により地力の増進を圖るが賢明得策である様に考へらる

自給肥料施用の經濟比較試験

試験年次

昭和四年より八年迄の五ヶ年

目的

各種自給肥料の經濟價值及其稻作に及ぼす影響並に經濟關係を知らんとす

方法

供試品種 昭和四年……京旭 昭和五-八年 神力十一號

供用面積 一區一畝歩宛 二區制

肥料設計

區別	自給肥料名	反當量	見積三成分			付記
			窒素	磷酸	加里	
一區	不施用	—	—	—	—	
二區	既肥	300	1,500	.780	1,500	中熟
三區	紫雲英(生)	375	1,500	.337	1,387	半乾切斷施用
四區	紫雲英(生)紫雲英	188	1,500	.556	1,448	一ヶ月前堆積
五區	稻藁堆肥	100	1,500	.780	1,500	一ヶ月前堆積
	稻藁	150				
	硫安堆肥	米糠9升硫安3匁				

各區併用肥料 石灰一五匁 棉實粕五匁 鱈粕六匁 硫安一〇五百匁

過磷酸石灰五匁 硫酸加里二〇五〇〇匁(內棉實粕五匁 過磷酸二匁 硫酸加里一〇五〇

〇匁は七月下旬追肥とし他は何れも代掻前元肥として施用) 金肥中ノ含有成分窒素一〇一

〇〇匁 磷酸一二〇〇匁 加里一〇三〇〇匁

供試田は前作紫雲英(生草収量約五〇〇匁)跡地なり

成績

昭和四年及五年の兩年は供試品種、供用田、肥料設計を異にせるを以て其の成績記載を省略す

1. 水稻収量調査

年次	區別	反當收量			順位	備考
		支米石	批	見積金額		
昭和六年	不施用區	2,388	1.9	144	56.09	收穫物見積の單價 玄米一石 二一圓 批一匁 二〇錢 藁一匁 四錢
	既肥區	2,793	1.8	160	65.18	
	紫雲英區	2,898	1.7	150	67.02	
	紫雲英(生)區	2,758	7.8	159	65.00	
	紫雲英(生)堆肥區	2,778	1.9	152	64.60	
昭和七年	不施用區	2,558	4.8	174	63.72	玄米一石 二二圓 批一匁 二〇錢 藁一匁 四錢
	既肥區	2,609	4.6	182	65.13	
	紫雲英區	2,597	5.2	177	64.73	
	紫雲英(生)區	2,552	4.6	165	63.20	
	紫雲英(生)堆肥區	2,729	2.5	183	67.60	
昭和八年	不施用區	2,520	1.1	143	61.27	玄米一石 二二圓 批一匁 二〇錢 藁一匁 四錢
	既肥區	3,000	1.8	167	72.86	
	紫雲英區	2,834	1.1	149	63.42	
	紫雲英(生)區	2,822	1.6	153	63.31	
	紫雲英(生)堆肥區	2,966	1.4	159	71.75	
三ヶ年平均	不施用區	2,489	2.6	154	60.36	
	既肥區	2,801	2.6	170	67.72	
	紫雲英區	2,776	2.7	159	66.72	
	紫雲英(生)區	2,711	4.5	159	65.50	
	紫雲英(生)堆肥區	2,824	1.9	165	67.98	

2. 自給肥料見積金額並に差引經濟關係 (三ヶ年平均)

區別	自給肥料見積金額			反當稻作收入金	差引額	順位
	材料別	數量	單價金額			
不施用區	—	—	—	60.36	60.36	4
既肥區	既肥	300	10匁=付	67.72	61.72	1
紫雲英區	生紫雲英	375	.15	66.72	61.09	2
紫雲英(生)區	生紫雲英	188	.15	65.50	58.68	5
	稻藁	100	.40			
紫雲英(生)堆肥區	稻藁	150	.40	67.98	60.51	3
	米糠	9	.03			
	硫安	3	4.00			

摘要

1. 自給肥料施用區は何れも増収を示し肥料成分の補給地方の増進他の肥料成分流亡防止等の効果

顯著なるを認めらる

2. 自給肥料の肥効は年に依り其の順位を異にし一定の傾向を確認し難きも
 - イ 紫雲英は他の自給肥料に比し奏効早く且肥効持続期間が 短き観あり
 - ロ 本縣に於て盛んに行はれつゝある方法に依る紫雲英糞堆肥區は連年成績劣れるは何かの欠陥あるやを思はしむ將來之が原因を探究し堆積法の改善を要するか
 - ハ 厩肥と稻藁糞堆肥は其の肥効殆んど伯仲せり厩肥不足の場合は最近獎勵されつゝある糞式促成堆肥堆積法等に依つて増産を圖る事が緊要である

概 評

1. 本成績に依れば自給肥料施用區は二斗二升乃至三斗三升の増收を示し尙連年施用する事に依て漸次地力の増進を見届作に好結果を齎すものである事が想像される
2. 作物栽培上自給肥料相當三〇〇メ内外施用の常石は計算より見て有利なるのみならず收支計算上厩肥紫雲英等の自給肥料代金見積算式に依り 厩肥十メ代金貳拾錢内外紫雲英十メ代金拾五錢内外に見積る事の妥當なるを首肯せらる
3. 有畜農業に依つて厩肥の増産を圖るが農業經營改善上望ましい所であるが厩肥不足の場合は糞式促成堆肥紫雲英等の自給肥料の増産をなし 地力の維持増進 生産費の節減を圖る事が緊要である

除 草 法 經 濟 比 較 試 験

試験年次

- 第一回 大正十四年より昭和二年迄三ヶ年
第二回 昭和四年より同七年迄四ヶ年

目 的

各種除草法除草に要する勞力及び米の收量に及ぼす影響を對照し最も經濟的除草法を知らんとす

方 法

供試品種 神力十一號

供用田 第一回 一區一反步(縦五〇間横六間)宛 第二回一區三畝十步宛

除草法設計

第一回試験

區別	除 草 法				植 付 株 數		
	第一回	第二回	第三回	第四回	坪當り	畦間	株間
畜力除草區	畜力除草機	畜力除草機	八反摺	手取	51.4	10	7
人力除草器區	轉土除草器	轉土除草器	八反摺	手取	50.0	9	8
手取除草區	雁爪打手	手取	手取	手取	50.0	9	8

備 考

本試験に使用の除草器は新井式畜力除草機 轉土器はいよ式田打車 八反摺は大塚式八反取り

第二回試験

區別	除 草 法				植 付 株 數		
	第一回	第二回	第三回	第四回	坪當り	畦間	株間
一 區	轉土除草器	轉土除草器	八反摺	手取	60	10	6
二 區	轉土除草器	手取	轉土除草機	手取	60	10	6
三 區	雁爪打手	手取	八反摺	手取	60	10	6

備 考

本成績に使用の除草器は革明式轉土除草器 岡野製八反摺器なり

試験成績

第一回試験

一. 勞 力 (反當除草に要せし時間)

區別	大 正 十 四 年					計	大正十 五年	昭 和 二 年	三ヶ年 平均
	第一回	第二回	第三回	第四回	補種及 手直し				
畜力除草區	人力 畜力 .26	人力 畜力 .28	3.40	12.50	2.50	人力20.15 畜力 .54	17.12 .55	—	18.43 .55
轉土除草區	2.45	2.55	3.40	12.50	—	人力22.10	20.17	23.53	22.07
手取除草區	7.30	10.30	11.30	12.50	—	人力42.20	32.22	39.45	38.09

備 考

大正十四年畜力除草機の通路兩側の株數に對する踏付株數

第一回	14,000株	中	140株	百分比	1%
第二回	14,000株	中	227株	百分比	1.6%

本試験に使役せし牛は体軀小にして歩巾狭きを選び本機使用に熟練せる農夫之が操縦をなせり手取及轉土除草は當業農事練習生の功程なり而して昭和二年畜力除草は教調を施したる畜牛得難く試験中止せり

二. 米の收量

試験區別	大正十四年	大正十五年	昭 和 二 年	二ヶ年平均	三ヶ年平均
畜力除草區	1.974 ^石	2.580 ^石	— ^石	2.277 ^石	— ^石
人力 轉土除草區	1.917	2.490	3.664	2.204	2.690
手取除草區	1.745	2.460	3.625	2.103	2.610

摘 要

1. 供試田は耕地整理直後に多少土地の均整を欠く憾ありしを以て米の收量に於て全幅の信を置き難きも本成績に於ては除草法を異にする事に因つて大なる差異を認めず
2. 畜力除草區は畜牛の選擇並に教調 除草機使用の熟練正條植の勵行等の諸條件を必要とする欠點あり

第二回試験

一. 勞 力 (反當除草に要せし時間)

昭和四年	區別	第一回		第二回		第三回		第四回		全除草に要 セシ勞力	同上 賃金
		除草法	作業時間 時分	除草法	作業時間 時分	除草法	作業時間 時分	除草法	作業時間 時分		
一 區	轉土	男	2.00	轉土	男	2.00	八反摺	男	4.00	男女 1.00 1.77	2.97
	手取	女	14.10	手取	女	13.15	手取	女	12.10		
	雁爪	女	18.00	手取	女	10.07	八反摺	男	4.00		
二 區	轉土	男	2.00	手取	女	11.15	轉土	男	2.00	男女 .50 3.06	3.66
	手取	女	13.15	手取	女	13.15	手取	女	12.10		
	雁爪	女	18.00	手取	女	10.07	八反摺	男	4.00		
三 區	雁爪	女	18.00	手取	女	10.07	八反摺	男	4.00	男女 .50 5.03	5.63
	手取	女	12.10	手取	女	12.10	手取	女	12.10		
	雁爪	女	18.00	手取	女	10.07	八反摺	男	4.00		

昭和五年	一區	轉土男 2.00	轉土男 2.00	八反摺男 4.00	手取女 12.00	男女 1.00 1.52	3.02
	二區	轉土男 2.00	手取女 9.42	轉土男 2.00	手取女 8.00	男女 .50 2.21	2.96
	三區	雁爪男 7.30	手取女 9.27	八反摺男 4.00	手取女 7.55	男女 1.43 2.18	4.32
昭和六年	一區	轉土男 2.00	轉土男 2.00	八反摺男 4.15	手取女 8.00	男女 1.00 1.00	1.83
	二區	轉土男 2.00	手取女 8.10	轉土男 1.30	手取女 8.45	男女 .44 2.11	2.13
	三區	雁爪男 7.00	手取女 9.00	八反摺男 4.15	手取女 8.00	男女 2.12 2.37	3.10
昭和七年	一區	轉土男 2.00	轉土男 2.00	八反摺男 4.00	手取女 10.00	男女 1.00 1.25	2.00
	二區	轉土男 2.00	手取女 9.00	轉土男 2.00	手取女 10.00	男女 0.50 2.37	2.37
	三區	雁爪男 8.00	手取女 9.00	八反摺男 4.00	手取女 10.00	男女 1.50 2.37	3.39
四ヶ年平均	一區	轉土男 2.00	轉土男 2.00	八反摺男 4.04	手取女 11.05	男女 1.01 1.39	2.45
	二區	轉土男 2.00	手取女 9.42	轉土男 1.52	手取女 10.00	男女 0.49 2.44	2.78
	三區	雁爪男 10.08	手取女 9.23	八反摺男 4.04	手取女 9.31	男女 1.21 2.98	4.11

備考 労力は八時間を以て一人と見做し
 労賃は昭和四・五兩年は男一人 一圓二〇錢 女一人 一圓
 昭和六・七兩年は男一人 一圓 女一人 八〇錢として計算せり

二. 収量及經濟關係

年次	區	收 量		稻作 收入	順位	除草 労賃	差引益	順位	生産物單價
		玄米	批						
昭和四年	一區	2,532	6.3	169	2	2.97	72.78	2	玄米一石二七圓 批一〇錢
	二區	2,448	7.8	183	3	3.66	70.53	3	批一〇錢
	三區	2,613	7.2	204	1	5.63	73.80	1	葉一〇錢 四錢
昭和五年	一區	2,716	2.2	181	2	3.02	48.30	1	玄米一石一七圓
	二區	2,676	1.8	178	3	2.96	48.05	2	批一〇錢
	三區	2,734	2.2	180	1	4.32	47.77	3	葉一〇錢 三錢
昭和六年	一區	2,828	1.4	156	2	1.83	63.93	2	玄米一石二一圓
	二區	2,901	1.2	161	1	2.13	65.35	1	批一〇錢
	三區	2,808	1.0	134	3	3.10	61.32	3	葉一〇錢 四錢
昭和七年	一區	2,613	4.5	168	2	2.00	62.65	1	玄米一石二二圓
	二區	2,590	4.8	173	3	2.39	61.99	3	批一〇錢
	三區	2,655	4.8	168	1	3.39	62.22	2	葉一〇錢 四錢
四ヶ年平均	一區	2,672	3.6	168	2	2.45	62.04	1	
	二區	2,654	3.9	174	3	2.78	61.48	2	
	三區	2,702	3.8	171	1	4.11	61.28	3	

摘 要

1. 本試験供用田は昭和四年は砂壤土乾燥地にして昭和五年以降は稍低濕なる壤土なり
2. 除草に要する労力は土質・灌排水の如何従業者の体力等に依り一定し難きも從來より行はれつゝある第三區の如き集約なる除草法にありては四人内外を要するも近時勞力節減の見地より轉土除草器或は八反摺除草器を用ひ一區二區の如き除草法に轉換されつゝありなゝる方法に依れば第三區に比して三分の一の勞力を節減し得るものにして場合に依つては半減し得る迄に至る見込なり

3. 集約なる除草法を採る事に依つて必然的に収量成績優れるも本試験に於ては其差僅少なり
4. 而して除草勞賃を差引たる利益に至つては必ずしも集約なる方法可なりと云ひ難く本成績の如く寧ろ一區の如き除草器に依る除草法が經濟的である場合あり

概 評

要するに勞力潤澤なる農家にありては自家勞力の質銀化の意味に於て三區の如き集約なる除草法に依るを可とするも雇人等の勞力に依り除草を行ふ場合は一區の如き粗放なる除草法を採用するも稻作上大なる悪影響なく寧ろ有利なるが如き成績を現す場合あり而して除草器單用の場合は稻株元の土かき並に除草不十分なるを以て考慮を要すべきも改良農具を活用して除草勞力を節し生産費節減に資するは稻作經營上賢明なりと認めらる畜力除草機と人力除草器との勞力の開きは本試験(第一回)に於ては僅少なるを以て本縣の如き平均耕作面積の少き農家にては現在の所人力除草器を以て満足すべきである様に窺はれる

植付株數經濟比較試験

試験年次 昭和五年より同七年迄三ヶ年

目 的

植付距離の粗密に依る稻作勞力の差異及稻收量に及ぼす影響を調査し其の何れが經濟的なるやを知らんとす

方 法

供用品種 美濃旭
 供用面積 一區五畝歩宛とし標準肥料と金肥五割増區との二區制とす
 植付株數 並に寸法
 坪當り六〇株 一尺×六寸
 同 四五株 一尺×八寸

試験成績

一. 所要勞力及苗代

年次	試験區別	苗代坪數	見積 苗代費	所要勞力(時間)				見積勞力		見積 勞賃
				苗取女	挿秧女	刈取男	結束女	男	女	
昭和五年	標準肥 { 六〇株植 四五株植	12.0	3.07	8.20	17.00	6.00	7.00	0.74	4.03	3.97
		9.0	2.31	6.17	14.00	4.45	6.20	0.59	3.32	3.24
昭和六年	多肥區 { 六〇株植 四五株植	12.0	3.07	8.35	17.00	6.00	7.00	0.75	4.09	4.02
		9.0	2.31	5.30	13.00	4.45	6.20	0.59	3.19	3.14
昭和六年	平均 { 六〇株植 四五株植	12.0	3.07	8.27	17.00	6.00	7.00	0.74	4.06	3.99
		9.0	2.31	5.53	13.30	4.45	6.20	0.59	3.25	3.19
昭和六年	標準肥 { 六〇株植 四五株植	12.0	2.15	8.25	16.40	5.20	6.40	0.67	3.97	3.85
		9.0	1.61	5.50	13.10	4.40	6.20	0.58	3.17	3.12
昭和六年	多肥區 { 六〇株植 四五株植	12.0	2.15	8.30	17.20	6.40	7.20	0.83	4.15	4.15
		9.0	1.61	5.55	13.50	5.20	6.40	0.67	3.21	3.42
昭和六年	平均 { 六〇株植 四五株植	12.0	2.15	8.27	17.00	6.00	7.00	0.75	4.06	4.00
		9.0	1.61	5.53	13.30	5.00	6.30	0.63	3.23	3.13

昭和七年	標準肥	六〇株植	12.0	2.82	8.30	17.00	5.30	7.00	0.69	4.06	3.94
		四五株植	9.0	2.11	6.00	13.30	4.50	6.20	0.60	3.23	3.18
	多肥區	六〇株植	12.0	2.82	8.30	17.30	8.30	8.00	1.06	4.18	4.40
		四五株植	9.0	2.11	6.00	13.30	6.00	7.20	0.75	3.35	3.43
	平均	六〇株植	12.0	2.82	8.30	17.00	7.00	7.30	0.88	4.12	4.18
		四五株植	9.0	2.11	6.00	13.30	5.25	6.50	0.68	3.39	3.31

三ヶ年平均	標準肥	六〇株植	12.0	2.68	8.25	16.53	5.37	6.58	0.70	4.02	3.92
		四五株植	9.0	2.01	6.02	13.33	4.45	6.20	0.59	3.24	3.18
	多肥區	六〇株植	12.0	2.68	8.32	17.07	7.03	7.27	0.88	4.14	4.19
		四五株植	9.0	2.01	5.48	13.27	5.22	6.47	0.67	3.25	3.27
	平均	六〇株植	12.0	2.68	8.28	17.00	6.20	7.10	0.79	4.06	4.05
		四五株植	9.0	2.01	5.55	13.30	5.03	6.30	0.63	3.29	3.23

備考 勞賃は一日八時間とし一人男一圓女八十錢として計算せり
 挿秧勞力は當場にて行ふ二間定規三本を使用し正條植となす作業時間なるを以て普通農家の方法に比し所要多し

摘要

1. 苗代費は植付株數に略比例して増加するは當然にして本試験兩者の差は五〇錢内外なり
2. 所要勞力は苗代の狀況本田土質並に作柄等の如何に依り差異あるも苗取及挿秧に要する時間は植付株數に比例して増加するも其他の勞力の差は僅少にして合計に於て兩者の差は一人弱賃金に於て約一圓に過ぎず

二. 收量及經濟關係

年次	區別	反當收量			經費比較			差引	
		玄米	糶	稻作收入	所要勞賃	苗代費	計		
昭和五年	標準肥	六〇株植	2.485	1.8	47.83	3.97	3.07	7.04	40.79
		四五株植	2.508	1.2	48.14	3.24	2.31	5.55	42.59
	多肥區	六〇株植	2.811	2.1	52.94	4.02	3.07	7.09	45.85
		四五株植	2.610	1.5	49.48	3.14	2.31	5.45	44.03
	平均	六〇株植	2.648	2.0	50.37	3.99	3.07	7.06	43.31
		四五株植	2.559	1.4	48.81	3.19	2.31	5.50	43.31
昭和六年	標準肥	六〇株植	2.700	0.3	62.77	3.85	2.15	6.00	56.77
		四五株植	2.475	0.3	57.60	3.12	1.61	4.73	52.87
	多肥區	六〇株植	2.827	1.5	65.95	4.15	2.15	6.30	59.65
		四五株植	2.857	1.5	66.86	3.24	1.61	4.85	62.01
	平均	六〇株植	2.763	0.9	64.35	4.00	2.15	6.15	58.20
		四五株植	2.660	0.9	62.23	3.18	1.61	4.79	57.44
昭和七年	標準肥	六〇株植	2.361	0.9	59.59	3.94	2.82	6.76	52.83
		四五株植	2.367	2.7	59.62	3.18	2.11	5.29	54.33
	多肥區	六〇株植	2.613	6.0	67.08	4.40	2.82	7.22	59.86
		四五株植	2.567	3.0	64.77	3.43	2.11	5.54	59.23
	平均	六〇株植	2.487	3.4	63.33	4.18	2.82	7.00	56.33
		四五株植	2.467	2.8	62.19	3.31	2.11	5.42	56.73

三ヶ年平均	標準肥	六〇株植	2.515	1.0	173	56.73	3.92	2.68	6.60	50.13
		四五株植	2.450	1.4	167	55.12	3.18	2.01	5.19	49.93
	多肥區	六〇株植	2.750	3.2	184	61.99	4.19	2.68	6.87	55.12
		四五株植	2.678	2.0	177	60.37	3.27	2.01	5.23	55.09
	平均	六〇株植	2.633	2.1	178	59.35	4.05	2.68	6.73	52.62
		四五株植	2.564	1.7	172	57.74	3.22	2.01	5.23	52.51

備考	收穫物計算の單價	昭和五年	支米一石 一七圓	糶一 一〇錢	糶一 三錢
		同 六年	二一圓	一〇錢	四錢
		同 七年	二二圓	一〇錢	四錢

摘要

收量關係

昭和六年の如き異狀天候（七月の分蘗期に低温霖雨あり）の年に於ては普通肥料に於て密植區著しく増收を示せり
 昭和五及七年の如き普通の年柄にありては普通肥料は大差を認め難きも多肥の場合は密植區優れたる成績なり 三ヶ年平均したる成績は標準肥多肥共密植區僅かに七升内外の増收なり

經濟關係

従つて經濟關係に於ては昭和六年標準肥は密植區有利にして多肥區は不利なりしも普通の年柄に於ては多肥増收栽培の場合は密植の要あるも普通肥料の場合は殊更に密植の必要を認めず

概評

水稻植付株數は品種の特性早中晩並に耕種諸條件に依り其の粗密を決定すべきは當然にして昔て當場にて行へる成績に依れば

品種	對株數試驗		
	早稻(郡益)	中稻(神力二三號)	晚稻(神力十一號)
三十六株〇	1.730	2.670	2.862
四十二株〇	1.844	2.728	2.966
五十四株〇	1.959	2.961	3.091
六十株〇	2.210	3.124	2.878
七十二株〇	2.246	2.966	2.756

而して一般に經費並に勞力を厭ひ粗植になり勝の傾きあるを以て當地方美濃地植付株數五〇株を中心とし稍粗植（坪四五株）と稍密植（坪六〇株）との兩者の收量經濟關係を調査せるに所要勞力は稻作期間を通じて一人内外の差にして其の經費苗代費の勞力費を合算し反當一圓五〇錢内外に過ぎず
 收量に於ては普通肥料の場合は特に密植の要を認めざるも分蘗期の天候不良の年柄にありては密植を可とす即ち天候の良否は豫測し難き所なるを以て稍密植が稻作上安全なりと云ふを得べく尙多肥の場合は稍密植の要ありと認めらる

生産費節減綜合經濟試驗

試験年次 昭和六年より八年迄三ヶ年

目的 生産費節減を圖らんため植付株數除草法肥料種類等の綜合的經濟比較をなさんこす

方法 供用面積—一區五畝歩 供用品種—美濃旭

試験設計

試験 區別	植付 株數			除 草 法				肥 料					
	畦間 株間	坪當り 株數	株數	第一回	第二回	第三回	第四回	紫雲英 (乾草)	石灰	硫安	過磷酸 石灰	硫酸 加里	其 他
標準肥	1.0	.6	60	轉土器	手取	轉土器	手取	50	15	1.6	4.0	3	棉實粕5 骨粉6 骨粉4 雞糞40 骨粉5 石灰素7 ²
一 區	1.0	.6	60	轉土器	手取	轉土器	手取	50	15	1.5	6.4	2.2	
二 區	1.0	.8	45	轉土器	轉土器	八反摺	八反摺	90	25	1.1	4.7	1.7	
三 區	1.0	.8	45	轉土器	轉土器	八反摺	八反摺	50	15	—	13.0	3.1	

反當肥料三要素 窒素2.400 磷酸2.160 加量2.340

成 績

年 次	區 別	反 當 收 量				生 産 費				差引益	自給肥料代ヲ 差引カザル利金
		玄米	批 發	見 積 金額	金額	勞 賃	肥料代	其 他	計		
昭和六年	標準區	2.697	2.2	150	62.85	18.00	8.81	3.49	30.30	32.55	35.05
	第一區	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	第二區	2.495	0.8	136	57.91	16.88	8.35	2.74	27.97	29.94	34.44
昭和七年	標準區	2.618	1.5	141	60.66	16.45	8.04	2.80	27.29	33.37	35.85
	第一區	2.359	4.8	171	59.22	20.52	8.77	3.98	33.27	25.95	28.45
	第二區	2.200	3.0	167	55.38	20.52	7.19	3.88	31.59	33.79	28.29
昭和八年	標準區	2.331	3.0	185	58.93	19.69	8.26	3.23	31.23	27.75	32.25
	第一區	2.561	2.7	199	64.57	19.31	7.72	3.38	30.41	34.16	36.66
	第二區	2.817	1.6	167	63.81	20.52	11.19	4.18	35.89	32.92	35.42
三ヶ年平均	標準區	2.790	1.2	149	67.46	20.52	8.69	4.18	33.39	34.07	39.29
	第一區	2.841	2.0	170	69.50	19.69	9.19	3.48	32.36	37.14	41.64
	第二區	2.724	1.2	144	65.81	9.31	8.89	3.48	31.68	34.13	36.63
三ヶ年平均	標準區	2.624	2.9	163	63.63	19.63	9.59	3.88	33.15	30.48	32.97
	第一區	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	第二區	2.556	1.9	164	62.13	18.75	8.60	3.17	30.52	31.61	36.44
		2.633	1.8	161	63.68	18.36	8.22	3.22	29.79	33.89	36.39

備 考 生産物見積單價は前自給肥料試験の場合に同じ勞賃は一日八時間制とし一人男一圓女七〇錢として計上せり肥料代中紫雲英乾燥一ヶ五錢とし他は時價に依る
其他の費目は苗代費及依裝材料費を計上せり

概 評

本試験設計に於て反當生産費標準に比し二區三區は約一割を節し得られ而かも稻作收量に遜色無き結果を得たり
自給肥料又は格安なる肥料の施用或は勞力の節減等に依り生産費節減の餘地あるものと認めらる

水田及畑作經營に關する綜合的經濟試驗成績並に柿園及茶園經營經濟調査

方法 供用面積—一區五畝歩 供用品種—美濃旭

試験設計

試験 區別	植付株數			除草法				肥料					
	間 株間	株 間	坪當り 株數	第一回	第二回	第三回	第四回	紫雲英 (乾草)	石灰	硫酸	過磷酸 石灰	硫酸 加里	其 他
標準肥	1.0	.6	60	轉土器	手取	轉土器	手取	50	15	1.6	4.0	3	棉實粕5% 籾粕6% 骨粉4%
一區	1.0	.6	60	轉土器	手取	轉土器	手取	50	15	1.5	6.4	2.2	鶏糞40%
二區	1.0	.8	45	轉土器	轉土器	八反摺	八反摺	50	25	1.1	4.7	1.7	骨粉5%
三區	1.0	.8	45	轉土器	轉土器	八反摺	八反摺	50	15	—	13.0	3.1	石灰窒素7%2

反當肥料三要素 窒素2,400 磷酸2,160 加量2,340

成績

年次	區別	反當數量			生産費			差利益	自給肥料代ヲ 差引ケザル利益		
		玄米	批 噸	見積 噸	勞賃	肥料代	其他				
昭和六年	標準區	2,697	2.2	150	62.55	18.00	3.81	3.49	30.30	32.55	35.05
	第一區	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	第二區	2,495	0.8	136	57.91	16.88	8.35	2.74	27.97	29.94	34.44
昭和七年	標準區	2,613	1.5	141	60.66	16.45	8.94	2.80	27.29	33.37	35.85
	第一區	2,359	4.8	171	59.22	20.52	8.77	3.38	33.27	27.95	28.45
	第二區	2,200	3.9	167	55.38	20.52	7.19	3.88	31.59	33.79	28.29
昭和八年	標準區	2,331	3.0	185	58.93	19.69	8.26	3.28	31.23	27.75	32.25
	第一區	2,564	2.7	139	64.57	19.31	7.72	3.38	30.41	34.16	36.66
	第二區	2,817	1.6	167	68.81	20.52	11.19	4.38	35.89	32.92	35.42
三ヶ年平均	標準區	2,790	1.2	149	67.46	20.52	8.63	4.15	33.39	34.07	39.29
	第一區	2,841	2.9	179	69.59	19.69	9.19	3.48	32.36	37.14	41.64
	第二區	2,724	1.2	144	65.81	9.31	8.89	3.48	31.68	34.13	36.63
三ヶ年平均	標準區	2,624	2.9	163	63.63	16.68	9.59	3.88	33.15	30.48	32.97
	第一區	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	第二區	2,556	1.9	164	62.13	18.75	8.60	3.17	30.52	31.61	36.44
第三區	2,633	1.8	161	63.68	18.36	8.22	3.22	29.79	33.89	36.39	

備考 生産物見積單價は前自給肥料試験の場合に同じ勞賃は一日八時間制とし一人男一圓女七〇錢として計上せり肥料代中紫雲英乾燥一メ五錢とし他は時價に依る
其他の費目は苗代費及依裝材料費を計上せり

概評

本試験設計に於て反當生産費標準に比し二區三區は約一割を節し得られ而かも稻作收量に遜色無き結果を得たり
自給肥料又は格安なる肥料の施用或は勞力の節減等に依り生産費節減の餘地あるものと認めらる

水田及畑作經營に關する綜合的經濟試驗成績並に柿園及茶園經營經濟調査

水田三毛作經濟試驗

試驗年次 和昭四年より八年迄五ヶ年

目的 勞力の集約利用及水田利用率増進のため米麥を主体させる三毛作經營を行ふ場合主作たる稻作に如何なる影響を及ぼすや及び三毛作通じたる經濟關係を比較對照し如何なる經營が經濟的なるやを檢せんとす

方法 試驗區面積一區一畝歩宛

試驗は冬作に小麥を栽培し夏作には水稻を栽培する二毛作經營を標準區とし第一區は普通に栽培せる麥作條間に四月上旬青刈大豆を下種六月下旬鋤込み水稻を栽植せり第二區は小麥畦幅を稍廣くし五月上旬麥の間へ胡瓜苗を定植し六月下旬又は七月中旬迄に收穫を終り水稻を栽培せり第三區は麥間に五月初旬南瓜苗を定植し七月中旬迄に收穫を終り水稻を栽植する經營法に依る

試驗區別及耕種標準

區別	作物名	品種名	播種期	定植期	反當種子	畦間	株間	追肥	中除草	耕	收穫期	付記
標準區	第一作	小麥	早生小麥	11.上		25	20	3	4		6.中	6尺巾高畦縱二條播
	第二作	水稻	萬作九號	5.上	6.下	18	10	6	1	4	10.下	普通栽培
一區	第一作	小麥	早生小麥	標準區=準ズ		80	20	條			6.下	麥ノ間へ播種シ田植前=圃△△
	第二作	青刈大豆	淡青	4.上								
	第三作	水稻	萬作九號	標準區=準ズ								
二區	第一作	小麥	早生小麥	11.上		10	60	條	3	4	6.中	8尺巾高畦、畦ノ兩端縱一條播トス
	第二作	胡瓜	聖護院	3.上	5.上	1.5	25	15	3	2	自6.上至7.中	麥ノ條間へ二條ニ定植ス
	第三作	水稻	萬作九號	5.中	7.中	25	10	6		2	10.下	晩植栽培
三區	第一作	小麥	早生小麥	二區=準ズ		2	60	20	1	2	自6.下至7.中	麥ノ條間へ一條植トス
	第二作	南瓜	黒皮早生	3.中	5.上							
	第三作	水稻	萬作九號	二區=準ズ								

成績

(一) 三毛作收支狀況

	昭和四年度					昭和五年度				
	總收入	總支出	引差益	勞力を含む農藥利得	同上指數	總收入	總支出	差引益	勞力を含む農藥利得	同上指數
標準區	107.99	58.55	49.44	81.89	100	75.39	61.23	14.16	54.33	100
一區	116.35	64.92	51.43	85.62	105	81.41	67.53	13.88	55.25	102
二區	181.56	101.85	79.71	134.95	165	120.55	98.65	21.90	93.41	172
三區	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	昭和六年度					昭和七年度				
	總收入	總支出	差引益	勞力を含む農藥利得	同上指數	總收入	總支出	差引益	勞力を含む農藥利得	同上指數
標準區	81.63	45.99	35.64	68.43	100	84.28	57.04	27.24	66.37	100
一區	89.88	52.56	37.32	71.90	105	90.65	59.66	30.99	71.24	107
二區	127.79	88.87	38.92	98.76	144	117.39	91.53	25.86	89.62	135
三區	104.75	57.21	47.55	88.37	129	95.41	62.72	32.69	77.43	117

昭和八年度					平均						
標準區 一 二 三	總收入	總支出	總引益	勞力を 含む農 業利得	同上 指數	標準區 一 二 三	總收入	總支出	差引益	勞力を 含む農 業利得	同上 指數
	円	円	円	円			円	円	円	円	
標準區	108.74	62.98	45.75	85.57	100	標準區	91.61	57.16	34.45	71.33	100
一區	111.87	64.32	47.55	87.85	103	一區	98.03	61.79	36.24	74.37	104
二區	145.32	91.81	53.51	112.39	131	二區	138.53	93.47	45.06	103.84	146
三區	185.28	65.68	69.60	111.53	130	三區	111.88	61.87	49.96	92.49	131

概評 一般農産物價額低廉なりしを以て各區共純益少しと雖も三毛作は標準に比し何れも増収にして二區三區は三割乃至四割六分の増収を示せり水田利用集約經營として今後益々研究すると共に之を實地に應用し以て農業利得の増加を期する要あり而して一區青刈大豆を加へたる三毛作は肥料費を節し得るのみならず跡作稻に好結果を齎し一般に推奨の價値ありと認められ二區胡瓜を加へたる三毛作は相當の肥料及勞力を要するも粗収入最も多く且土地の肥沃度を増進し水稻生産費を節減し得るものなれば勞力豊富しかも都市附近にして下肥等の安價に得られ且出荷にも容易なる地方に於ては甚だ有利なりと認めらる而して五六月に於ける勞力の所要特に多きを以て資糧地帯にして春蠶を飼育する農家にありては勞力幅狭する嫌あり此の點に注意を要す

三區南瓜を加へたる三毛作は極めて平易にして比較的肥料及勞力の所要少く生産物の出荷も容易にして且貯蔵に堪へ粗収入は前者に比し少く傾あるも純益は割合に多く一般に應用し易き經營法なりと信す

此の外一般に夏蔬菜は早期生産に依り市價の高き間に大部分の収益を収め七月中下旬の最盛期市價低落する頃には他作物へ轉換する如く經營様式を改善するを得策とし水田利用として茄子トマト西瓜里芋等の早熟栽培或は菜豆 枝豆 玉蜀黍 紫蘇等の混作に依り収益増進の途を講ずる事緊要なり

要するに水田集約經營に依り従來の方法に依る利得に比し五割以上の増収を期する事は左程困難を感じない方策にして地方の事情並に餘剩勞力等を考慮し此種經營法の普及を望む

(二) 年度別各區作物別の收支關係

昭和四年各區作物別收支調

區別	作物名	收		總收入	支					差引利益	勞力を含む農業利得				
		量	量		種苗費	肥料費	勞力費	雜品費	合計						
標準區	小麥	麥	1.75	肩麥	0.05	麥	86	32.26	.60	9.14	13.11	.80	23.65	8.61	21.72
		玄米	2.52	批	4.5	稗	181	75.73	.40	13.68	19.34	1.48	34.90	40.83	60.17
第一區	小麥	麥	1.75	肩麥	.05	稗	68	32.26	.60	9.14	13.25	.80	23.79	8.47	21.72
		青刈大豆	2.727	批	3.9	稗	177	81.09	.40	16.68	19.88	1.61	38.57	42.52	62.40
第二區	小麥	麥	1.48	肩麥	.08	稗	57	27.46	.54	8.80	13.32	.70	23.86	4.10	17.42
		玄米	2.676	批	1.4	稗	176	80.69	.40	8.20	18.58	1.48	28.66	52.03	68.61

備考 收入金計算の單位
 小麥 一石 拾七圓 肩麥 石 五圓 麥稗壹圓に付 三〇圓
 稻 玄米 一石 貳拾七圓 批 一貫 拾錢 稗及稗穀一圓に付 二五圓
 青刈大豆 一貫 貳錢 五厘
 胡瓜 上一本 一錢五厘強 下三厘強

摘要

標準區 土地瘠薄 施肥量少き憾あり
 第一區 第二作青刈大豆播種量を増し多少の液肥を用ゆれば尙増収の餘地あり播種期を早むれば増収の見込あれ共麥の培土の關係上尙研究を要す
 第三作稻作に青刈大豆を鋤込たるを以て標準に比し收量を増したり自給肥料少き當業者の研究實施の價値あり
 第二區 第二作胡瓜早熟栽培法改良により尙増収の餘地多からん
 第三作稻七月十五日植の晩植栽培なるに係らず前作肥料殘効及分蘖期並に出穂期の氣候適順に因り收量比較的多し肥料費及除草勞力を節減し得るは本區の特色なり

昭和五年各區作物別收支調

區別	作物別	收		總收入	支					差引利益	勞力を含む農業利得		
		量	量		種苗費	肥料費	勞力費	雜品費	合計				
標準區	小麥	麥	2.237	麥	90	30.73	.32	7.92	17.25	1.00	26.49	4.24	21.49
		玄米	2.301	批	177	44.66	.37	10.19	22.92	1.26	34.74	9.92	32.84
第一區	小麥	麥	2.083	麥	90	28.82	.32	7.92	17.25	.90	26.39	2.43	19.68
		青刈大豆	1.80	批	195	3.60	1.60	—	1.20	—	2.80	.80	2.00
第二區	小麥	麥	1.678	麥	81	23.05	.26	5.99	15.76	.74	22.75	.30	16.06
		胡瓜	5.846	下	4.500	55.77	4.20	13.53	24.97	5.90	48.60	7.17	32.14

備考 收入金額の單位
 小麥 一石 十二圓四〇錢 麥稗一圓 = 付三〇圓
 玄米 一石 一七圓 批一貫 一〇錢 稗一貫 三錢
 青刈大豆 一貫 二錢 胡瓜一本上 八厘 下 二厘

備考

標準區 土地瘠薄施肥量不足の憾あり第一區第二作青刈大豆多少の液肥を用ゆれば尙増収の餘地あらん第三作稻作に青刈大豆を鋤込たるを以て標準區に比し増収を見たり
 第二區 第一作小麥減收を來したるは跡作肥培のため出穂當時麥を多少損ぜしめたるに依るもの、如し
 第二作 胡瓜栽培技術尙改良の餘地あり市價低廉に因り収入少かりしも粗収入に於ては他の何れよりも優位を示せり
 第三作 稻晩植栽培なりしたため標準區に比し七升二合の減收を示せるも肥料費及除草勞力を節減し得て純益に於ては優位を占め三毛作を通じ經濟關係は良好なり

昭和六年各作物別收支調

區別	作物別	收		總收入	支					差引利益	勞力を含む農業利得		
		量	量		種苗費	肥料費	勞力費	雜品費	合計				
標準區	小麥	小麥	2石597	麥	75	26.77	.25	4.50	16.82	.90	22.47	4.30	21.12
		玄米	2.327	批	145	54.86	.18	6.17	15.97	1.20	24.52	31.34	47.31
第一區	小麥	小麥	2.270	程	84	24.05	.25	4.50	16.82	.79	22.36	1.69	18.51
		青刈大豆	2.15	批	150	3.15	1.60	—	1.00	—	2.60	.55	1.55

區	作物	收穫量	收入金額	種苗費	肥料費	勞力費	雜品費	計	差引利益	勞力を含む農業利得
二區	小麥	1.323 麥稈57	14.29	.10	1.92	9.31	.45	11.78	2.52	11.82
	胡瓜	上250本 下5.800本	48.90	1.05	16.18	28.57	1.60	47.40	1.50	30.07
	玄米	2.781 粟153 批8	64.60	.18	6.17	16.96	1.38	24.69	39.91	56.87
區計		127.79	1.33	24.27	54.84	3.43	83.87	43.92	98.76	
三區	小麥	1.684 麥稈57	17.65	.10	1.92	9.31	.60	11.93	5.72	14.89
	胡瓜	1.452個(356貫)	36.30	.60	5.02	15.26	.60	21.48	14.82	30.08
	玄米	2.160 粟133 批1.2	50.80	.25	6.17	16.30	1.08	23.80	27.00	43.30
區計		104.75	.95	13.11	40.87	2.28	57.21	47.54	88.37	

附記 收穫物單價 小麥一石九圓三〇錢 麥稈十貫三五錢 青刈大豆十貫一〇錢 胡瓜一本上六厘下三厘 南瓜一ヶ二錢五厘 玄米一石二圓 粟十貫四〇錢 批一貫一〇錢

備考 小麥收量 二區、三區小麥の收量少きは跡作の關係上畦間を廣くせるため播種面積の少きに依る
 青刈大豆は播種期を早むれば尙増收の餘地あらんも麥の培土の關係上意の如く行ふ能はず胡瓜は晩期病害を蒙りたるを以て六月下旬に收穫を止め跡作水稻を普通の時期に植付たり胡瓜は勞力及肥料の所要多きも粗収入は最も多し
 南瓜は粗収入胡瓜に比し少き傾あるも肥料勞力の所要少く純益多き比較的簡單なる作物なり
 稻作收量
 一區青刈大豆跡及二區胡瓜跡水稻は標準區に比し著しく増收にして是等を前作せる場合は土地の肥沃力を大いに増進するものと察せらる
 三區南瓜跡水稻は七月一五日植所謂晩植栽培なるを以て標準に比し減收を見たるも晩植栽培法の研究に依り今後好轉の途あらん蔬菜栽培跡地の水稻晩植栽培は肥料及勞力を大いに節減し得る利あり

昭和七年各作物別收支調

區	作物	收穫量	收入金額	種苗費	肥料費	勞力費	雜品費	計	差引利益	勞力を含む農業利得
標準區	小麥	1.54 麥稈94貫	24.38	.37	6.30	18.54	.70	25.91	1.53	17.01
	玄米	2.415 粟164貫 批2貫1	59.90	.22	9.12	20.59	1.20	31.13	28.77	49.36
	區計		84.28	.59	15.42	39.13	1.90	57.04	27.24	66.37
一區	小麥	1.55 麥稈78	24.04	.37	6.30	18.54	.70	25.91	1.87	16.67
	青刈大豆	生280貫	2.80	1.60	—	1.12	—	2.72	.08	1.20
	玄米	2.562 粟172 批5.7	63.81	.22	8.92	20.59	1.30	31.03	32.78	53.37
區計		90.65	2.19	15.22	40.25	2.00	59.66	30.99	71.24	
二區	小麥	835 麥稈58	13.43	.15	2.10	12.46	.40	15.11	1.68	10.78
	胡瓜	上6.630本 下5.710本	51.20	1.05	12.06	30.87	5.84	49.82	1.38	32.25
	玄米	2.050 粟184 批3.0	52.76	.33	4.84	20.43	1.00	26.60	26.16	46.59
區計		117.39	1.53	19.00	63.76	7.24	91.53	25.86	89.62	
三區	小麥	845 麥稈52	13.39	.15	2.10	12.46	.40	15.11	1.72	10.74
	胡瓜	(1.300個)354貫	31.92	.60	6.38	11.85	2.18	21.01	10.91	22.76
	玄米	1.974 粟155 批5.4	50.16	.33	4.84	20.43	1.00	26.60	23.56	43.99
區計		95.41	1.08	13.32	44.74	3.58	62.72	32.75	77.49	

附記 收穫物ノ單價 小麥一石一四圓 麥稈十貫三〇錢 青刈大豆十貫一〇錢 胡瓜一本上六厘下二厘 南瓜一貫上一四錢下五錢 玄米一石二圓 批一貫一〇錢 粟十貫四十錢

備考 本年度小麥登熟不良にして一般に減收なり
 胡瓜及南瓜は栽培及販賣法の改善に依り増收の餘地多きを認む
 一區の稻は青刈大豆の影響に依るが最も收量多く例年同傾向あるは注目すべき點なり
 二區三區稻は七月一五日植(普通栽培六月廿六日)所謂晩植栽培なりしを以て減收を見たるも當場に於て鋭意晩植栽培法の研究に付き該研究の成績と相俟ちて此種經營がより有利に展開せん

昭和八年各區作物別收支調

區	作物	收穫量	收入金額	種苗費	肥料費	勞力費	雜品費	計	差引利益	勞力を含む農業利得
標準區	小麥	2.195 麥稈81	34.65	.36	9.56	20.91	1.00	31.83	2.82	23.73
	玄米	2.991 批0.8 粟192	74.09	.27	10.48	18.90	1.50	31.15	42.94	61.84
	區計		108.74	.63	20.04	39.81	2.50	62.93	45.76	85.57
第一區	小麥	2.177 麥稈80	34.36	.36	9.56	20.91	1.00	31.83	2.53	23.44
	青刈大豆	265	2.65	1.20	—	1.12	—	2.32	.33	1.45
	玄米	3.009 批1.2 粟204	74.86	.27	10.13	18.27	1.50	30.17	44.69	62.96
區計		111.87	1.83	19.69	40.30	2.50	64.32	47.55	87.85	
第二區	小麥	1.220 麥稈40	19.09	.12	3.03	10.69	.60	14.44	4.65	15.34
	胡瓜	上8536 下6828	54.34	1.05	14.76	31.06	5.73	52.60	1.74	32.80
	玄米	2.940 批2.8 粟156	71.89	.33	5.81	17.13	1.50	24.77	47.12	64.25
區計		145.32	1.50	23.60	58.88	7.83	91.88	53.51	112.39	
第三區	小麥	1.220 麥稈40	19.09	.12	3.03	10.69	.60	14.44	4.65	15.34
	胡瓜	上371 下185 枝豆650把	49.08	.60	9.34	14.11	2.52	26.57	22.51	36.62
	玄米	2.733 批1.6 粟156	67.11	.33	5.81	17.13	1.40	24.67	42.44	59.57
區計		135.28	1.05	18.18	41.93	4.62	65.68	69.60	111.53	

備考 收穫物單價
 小麥一石一四圓五〇錢 麥稈一ヶ三錢五厘 青刈大豆一ヶ一錢 胡瓜一本上五厘下二厘 南瓜一ヶ上八錢八厘下三錢六厘 玄米一石二圓五〇錢 批一ヶ一〇錢 粟一ヶ三錢五厘

摘要 前年と傾向を同じくせる成績を示せるも本年に於ける第二區第二作胡瓜は收量多かりしも市價安きために利益少し
 後作稻の成績は天候順調にて良成績を示し三作通じたる勞力を含む利益は第一位なり
 第三區第二作南瓜は成績前二ヶ年に比し優秀にして差引利益は胡瓜に優り
 三毛作通じたる經濟關係に於て差引利益は第一位を示せり

五ヶ年平均各區作物收支調 (第三區三ヶ年平均)

區	作物	收穫量	收入金額	種苗費	肥料費	勞力費	雜品費	計	差引利益	勞力を含む農業利得
標準區	小麥	2.287 麥稈85	29.76	.38	7.49	17.33	.88	26.08	3.68	21.01
	玄米	2.519 批1.8 粟172	61.85	.28	9.93	19.55	1.32	31.08	30.77	50.32
	區計		91.61	.66	17.42	36.88	2.20	57.16	34.45	71.33
第一區	小麥	1.966 麥稈84	28.70	.38	7.49	17.35	.84	26.06	2.64	19.99
	青刈大豆	232	3.04	1.50	—	1.10	—	2.60	.44	1.54
	玄米	2.705 批2.7 粟180	66.29	.28	11.77	19.63	1.40	33.13	33.16	52.84
區計		98.03	2.16	19.26	38.13	2.24	61.79	36.24	74.37	
第二區	小麥	1.307 麥稈58	19.48	.22	4.37	12.32	.58	17.49	1.99	14.31
	胡瓜	上6.349 下5.818本	56.71	1.95	15.58	27.77	4.35	49.65	7.06	34.83
	玄米	2.535 批1.4 粟158	62.34	.34	5.98	18.79	1.22	26.33	36.01	54.80
區計		138.53	2.51	25.93	58.88	6.15	93.47	45.06	103.94	
第三區	小麥	1.250 麥稈58	16.71	.12	2.35	10.33	.53	13.83	2.88	13.71
	胡瓜	422	39.10	.60	6.92	13.74	1.76	23.02	16.08	39.82
	玄米	2.289 批2.7 粟148	56.02	.30	5.60	17.96	1.16	25.02	21.00	38.96
區計		111.83	1.02	14.87	42.53	3.45	61.87	49.96	92.49	

摘要 小麥收量に於て 一區は標準に比し通風關係が稍減收なるも其の差は僅少なり二、三區小麥は播種間の間隔五一六尺をなせる關係上播種長少く減收を免れざるも跡作の都合上不得止事なり青刈大豆收量は播種期播種量に注意すれば尙増收の餘地あり、胡瓜にありても施肥量の増加と「ベト病」豫防に留意するとか、南瓜は育苗法の改善等により尙増收の見込あり

水稻収量に於て 第一區青刈大豆跡の水稻は標準に比し著しく増収を示せるは注目すべき點にして土地瘠薄にして自給肥料乏しき當業者には應用價值多からん。二區胡瓜跡の水稻は一般に前作肥残効のため生育良好なるものにして晩植なるに係らず比較的収量多し。三區南瓜跡の水稻は晩植なるため標準に比し約三斗の減収を示せるも晩植栽培法の研究改善に依り前記減収を少なからしめ得る見込にて此の方面に就き鋭意研究を要す

第二區胡瓜を加へたる三毛作は粗収入最も多く都市附近にして出荷に容易なる農家の水田集約經營に好適するものと認められ第三作稻は前作の關係上土地の肥沃力を増し生産費を節減し得る利あり。而して冬季三、四月頃迄の間に小麦の間作として菘類蒔草等を栽培することを得一層集約度を増す餘地あり

第三區南瓜を加へたる三毛作は粗収入前者に比し幾分劣るも雖も肥料勞力の所要少く純益の割合に多き一般向の經營法なりと認めらる。尚前者同様冬季中菘類蒔草等を小麦の空畦に栽培する事を得る外南瓜の混作として同時に枝豆及菜豆等を栽植し一層集約度を高むる餘地多し冬作物小麦の代用作として葱頭等の栽培も相當有利ならん

三 三毛作の勞力分配の關係

標準區	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
小稻計	.5	1.1	1.5	2.0	—	5.5	—	—	—	—	5.6	1.5	17.7
一區	.5	1.1	1.5	2.0	—	5.5	—	—	—	—	5.6	1.5	17.9
二區	.4	.7	.8	1.2	—	2.8	—	—	—	—	3.6	1.0	10.5
三區	.4	.7	.8	1.2	—	2.8	—	—	—	—	3.6	1.0	10.5

前表に於て大体窺はるる如く第二區胡瓜を加へたる三毛作は相當の勞力を要するものなるを以て耕地の少き農家にして勞力過剰なる農家の經營に適す。而して五月、六月に於ける勞力所要特に多きを以て養蠶地帯にして春蠶を飼育する農家にありては勞力輻輳する嫌あり注意せねばならぬ。第三區南瓜を加へたる三毛作は左程勞力を要しない一般に經營容易な方法なり

概 評 前掲の成績を総合的に考察するに一區青大豆を加へたる三毛作は稻作上最も好影響を齎し一般に推賞の價值ありと認めらる。二區胡瓜を加へたる三毛作は粗収入最も多く勞力豊富しかも都市附近にして下肥等の安價に得られ且出荷にも容易なる地方に於て經營すればより有利なりと認む。但し春蠶を飼育する農家にありては勞力の關係上多作に適せざるが如し三區南瓜を加へたる三毛作は極く平易にして比較的肥料勞力の所要少く生産物の出荷も容易且貯蔵に堪へ粗収入は前者に比し少き傾きあるも純益は割合に多く一般に應用し易き經營法なりと信ぜらる

此の外一般に夏蔬菜は早期生産に依り市價の高き間に大部分の収益を収め七月中下旬の最盛期に市價の低落する頃には他作物へ轉換する如く經營機式を改善する様心掛肝要にして水田利用として茄子、トマト、西瓜、里芋等の早熟栽培或は菜豆、枝豆、玉蜀黍、紫蘇等の混作に依り収益増進の途を講ずる事緊要なり

要するに水田集約經營に依り從來より五割以上の増収を期する事は左程困難を感ぜざる最も賢明なる増収策にして地方の事情並に餘剩勞力等を考慮し此種經營法の益々普及發達せんことを切望する

水田裏作經濟試驗成績

試驗年次 昭和三年より同七年迄四年

目 的

水田に於て水稻の裏作として如何なる作物を栽培するが最も經濟的なるやを調査し當業者の參考に資せんため次の十區に分ち裏作經濟試驗を施行せり

方 法

試驗區面積 一區二畝十五歩

試驗區別(裏作名)

一區 大 麥 二區 ビール麥 三區 小 麥 四區 菜 種 五區 甘 藍
六區 蠶 豆 七區 蒔 草 八區 葱 頭 九區 採種紫雲英 十區 青刈紫雲英

表作水稻 品種神力二三號 而して該試驗に於て

一、各裏作物の收支關係を精査し併せて 二、各裏作物の稻作に及ぼす影響並に經濟關係を調査し裏作及び表作たる稻作を通じ其の何れが最も有利なるやを調査せり

水田裏作耕種標準

區別	作物名	品種名	播種期	定植期	反苗	畦巾	株間	反當肥料	追肥	中耕除草	收穫期	付 記
一區	大 麥	谷 風	11上	—	30	2.0	條	堆肥150下 肥180藥灰 15大豆粕5 過石5硫安1	3回	4回	6上	6尺巾高畦 こし縦2條播
二區	ビール麥	白稈	—	—	—	—	—	—	—	—	6中	同
三區	小 麥	早生	—	—	—	—	—	—	—	—	6中	同
四區	菜 種	吾 妻	9中	11下	5勺	2.0	1.7	堆肥300下 肥250大豆 粕10過石5 藥灰15	5	4	6中	同 2條播
五區	甘 藍	サダヤ	10上	12中	3勺	2.0	1.7	堆肥300下 肥250大豆 粕10過石5 藥灰15	5	4	自至 6上 6中	同
六區	蠶 豆	一 寸	10下	11上	120合	2.5	1.5	藥灰15過石5	1	4	自至 6上 6中	同
七區	蒔 草	名古屋大實	9上	11下	8000株	3.0	2條	堆肥300大 豆粕18過石 5下肥250 種粕5藥灰15	5	6	自至 5下 6中	6尺巾高 畦4條植
八區	葱 頭	黃 葱 頭	9中	12上	5合	2.0	2條	堆肥200下 肥150硫安 大豆粕10 藥灰15 過 石7	4	4	6中	6尺巾高 畦4條植
九區	採種紫雲英	晚 生	9下	—	25	—	撒 播	稻 糞20束 (藥切こし)	—	—	6中	—
十區	青刈紫雲英	晚 生	9下	—	15	—	同	同	—	—	5中	—

堆肥300畝
安1.5 骨粉
4 桶 實籾 1 4 10下
籾 籾 過石
2 畝 加 2.5

表作 水 稻 早 神 28 號 5上 6下 18 10 .6

試験を行へる田は稍瘠薄なる水田にして排水亦稍不良なるを以て紫雲英以外は概ね牛馬耕に依り畦巾六尺内外の高畦に整地せり

試験成績

累年成績を省略し平均を以て示す

一 各裏作物の反當り収量

作物名	品 種 名	反當 収量	収量 比率	價 格	價格 比率	總收 入金	平 均 年 次
ビール	麥 白稈 ゴールド	2,551石	182	1石11.82圓	85	33.10圓	自昭和3年 全同 6年 平均
大	麥 谷 風	2,917	150	7.95	57	26.04	自昭和3年 全同 7年 平均
小	麥 早生	1,934	100	13.87	100	28.81	同 6年 平均
小	菜 麥種	1,510	78	13.80	100	21.53	同 7年 平均
探	種 紫雲英	362	19	38.00	—	13.14	同 7年 平均
青	刈 紫雲英	870	—	1貫.12	—	9.54	同 7年 平均
甘	藍 サダヤ早生	1,514玉	—	1玉.019	—	28.32	同 7年 平均
蠶	登 一寸	216.0貫	—	1貫.105	—	27.02	自昭和6年 全同 7年 平均
苺	頭 名古屋大實	100.5	—	同.805	—	77.08	同 7年 平均
葱	頭 黄玉葱	667.0	—	同.048	—	31.61	同 7年 平均

以上の成績なるも經濟關係は價格の變動に因り著しく左右せらるるは勿論土地の事情交通の便否等に依り自らその趣を異にするを以て常に是等の點を考慮する事肝要なり

二 各裏作物の生産費 (平均年次第一表の通り以下同様)

作物名	反當直接 生産費	内 訳					直接生産費
		種苗費	肥料費	勞力費	雜費	其他	
ビール	25.28	.45	7.74	16.41	.68	—	1石 8.78
大	25.21	.21	7.65	16.75	.60	—	同 7.65
小	25.10	.37	7.65	16.33	.75	—	同 11.50
探	28.89	.02	11.66	16.97	.24	—	同 18.50
青	5.19	1.11	.53	4.20	.07	—	同 16.33
甘	3.82	1.35	.74	1.73	—	—	100貫 .44
蠶	21.32	1.47	13.73	17.68	—	—	100玉 2.00
苺	23.41	4.40	2.87	16.14	—	—	10貫 .84
葱	61.05	4.00	10.14	43.91	3.00	—	同 6.10
葱	36.99	3.00	8.55	25.44	—	—	同 .55

生産費中種苗費の所要多き裏作は蠶豆、苺、葱頭、甘藍紫雲英なり肥料の所要多きは甘藍、菜種、苺、葱頭にして其の少きは紫雲英、蠶豆なり、勞力の所要多きは苺、葱頭、甘藍等の蔬菜類にして其の少きものは紫雲英、蠶豆、菜種なり

三 各裏作物々業別所要勞力

作物名	畜 力	人 力	育 苗	整 地	播 種	定 植	施 肥	中 耕 除 草	土 入 又 は 土 寄	收 穫	乾 燥 調 製	其 他	合 計	
													畜 力	人 力
大	1.0	2.8	—	1.8	—	1.5	3.0	2.0	2.0	3.8	.5	1.0	17.4	18.4
小	1.8	2.8	—	1.8	—	1.5	3.0	2.0	1.8	2.5	.6	1.0	16.0	17.0
菜	2.3	2.0	—	2.9	2.0	1.6	—	1.5	1.2	2.0	.2	.8	15.6	16.4
甘	2.3	0.8	—	2.9	2.5	2.0	—	—	—	4.5	.5	.8	17.2	18.0
探	—	—	—	.2	—	—	—	—	—	1.4	2.2	.5	—	4.3

作物名	畜 力	人 力	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月	合 計
青刈紫雲英	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.0	—	.4	—	1.6
蠶豆	1.0	2.0	—	1.5	1.0	3.5	1.7	4.5	—	.5	.9	15.7	16.6		
苺	8.9	0.9	—	7.3	2.0	9.2	—	18.5	—	2.0	.9	50.7	51.6		
葱頭	1.5	0.9	—	6.1	3.5	5.8	1.5	6.5	—	—	.9	27.7	28.6		

所要勞力の最も多きは苺にして除草及收穫に相當の勞力を要す、次で葱頭大麥甘藍の順序にありその少きは青刈紫雲英、採種、紫雲英、菜種、蠶豆等の順位なり、小麥は大麥に比し收穫調整容易にして勞力少きが普通なり

四 各裏作物勞力分配關係 (反當り月別分配表)

裏作物名	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月	合 計
大	—	1.2	2.2	1.6	—	6.3	—	—	—	—	5.6	1.5	18.4
小	—	1.2	2.2	1.6	—	4.9	—	—	—	—	5.6	1.5	17.0
菜	.7	1.8	1.5	1.0	—	3.5	—	—	.5	.5	1.0	5.9	16.4
甘	.6	1.1	1.5	1.5	.7	3.0	—	—	—	1.5	1.0	7.1	18.0
探	—	—	—	—	—	1.5	2.2	—	.2	—	—	.4	4.3
青	—	—	—	—	1.0	—	—	—	.2	—	—	.4	1.6
蠶	—	1.6	1.3	1.6	—	4.0	—	—	—	—	5.1	3.0	16.6
苺	.5	1.7	4.0	4.8	14.0	6.5	—	—	4.5	2.5	10.5	2.5	51.6
葱	.5	1.5	4.0	3.1	2.5	5.5	—	—	.5	.7	.8	9.5	28.6

稲作との勞力分配關係の良好なるは紫雲英にして次で菜種、蠶豆、苺、甘藍、葱頭等なり、是等は稲作との關係良好なるのみならず麥作との關係も亦比較的の良好にして麥の播種を終へて後定植をなし麥を收穫する前又は後に之等を收穫する事を得るを以て麥と適宜組合せ經營するにも適當と認めらる養蠶との勞力分配關係も考慮する事肝要にして苺栽培は收穫期恰も春蠶壯蠶期に勞力幅狭する嫌あり注意を要す

五 各裏作物の跡作たる稲作に及ぼせる影響

裏作物別	玄米 収量	粟 収量	稲作總 收入	稲作 利益	平均 年次	裏作物別	玄米 収量	粟 収量	稲作總 收入	稲作 利益	平均 年次
ビール	2,562	187	64.38	31.11	4	大	2,555	148	63.97	31.04	5
小	2,600	144	65.57	32.71	5	菜	2,636	152	66.42	33.54	5
探	2,631	149	65.92	30.99	5	青刈紫雲英	2,691	150	67.48	32.55	5
甘	2,623	159	66.42	34.00	5	蠶豆	2,600	130	61.36	33.94	2
苺	2,697	140	63.97	35.54	2	葱頭	2,819	152	66.83	39.40	2

大体に於て蔬菜類の跡地は稲作に良結果を齎らす事は疑ふ余地なからん次で菜種青刈紫雲英跡も稲作良なり

六 裏作物作通じたる經濟關係

作物名	畜 力	人 力	總收入	總支出	支 出			純 益	勞力を含 農業利益	順 位
					種苗費	肥料費	勞力費			
大	1.0	2.8	97.48	58.55	.80	19.85	35.88	2.02	38.93	74.81
小	1.8	2.8	90.01	58.14	.56	19.19	36.45	1.94	31.87	63.32
菜	2.3	2.0	94.38	57.96	.72	19.19	35.93	2.12	36.42	72.35
甘	2.3	0.8	87.95	61.77	.37	23.20	36.66	1.54	26.18	62.84
探	—	—	79.06	40.84	1.46	11.99	25.98	1.41	38.22	64.20
青	—	—	77.02	38.75	1.70	12.20	23.51	1.34	38.27	61.78
蠶	—	—	94.74	65.25	1.82	24.77	37.32	1.34	29.49	66.81
苺	—	—	88.38	50.83	4.60	10.51	34.42	1.30	37.55	71.97
葱	—	—	141.05	88.48	4.20	17.79	62.19	4.30	52.57	109.76
葱	—	—	98.44	64.42	3.20	16.20	43.72	1.30	34.02	77.74

以上裏作物試験に於ける生産物は概ね地方仲買商人に拂下たる金額の實收に依るものにして販賣法の改善に依り尙多額収入を挙げ得べく就中蔬菜類は市場へ共同出荷或は夜間市場等にて販賣する事を得る地方にてはより以上の収益を挙げ得らるゝものも考へらる

概 評

要するに前掲の通り各作物の特質を究知し裏作物を栽培すべきなるも一般的裏作として有利なりと認めらるゝは蠶豆小麦ピール麥等にして都市に接近する地方にては苜、苜、苜、苜等蔬菜を低温地方或勞力分配の圓滑を期せんためには菜種を粗放、經營には紫雲英等それぞれ地方の事情都市の遠近交通の便否或は余剰勞力並に其の分配經營法の如何に依り適宜取捨選擇配合し經營する事が肝要にして市價にのみ拘泥して一方に偏するが如きは生産の統制を亂し價格の下落を來し思はざる損失を招く事あるを以て此點注意すべきなりと思料せらる

畑作經營法經濟試驗成績

試驗年次 昭和四年より同八年迄四ヶ年

目 的

畑作經營をなすに當り反當收益の増進を期せんとするには如何なる作物を如何なる順位に作付するが 濟的であるかを調査し畑作 營改善に資し併て各作物の所要勞力並に其の分配を究知すると共に直接的生産費の調査を行ひ農業 營上の參考資料を得んとし次の六區に分ち 濟試驗をなせり

一 試驗の方法

- 1 試驗區面積 一區二畝十五歩宛
- 2 試驗區別並に耕種標準

試驗區別	耕種標準	標 準	追 肥	中 土 肥	收 穫 期	附 記
【標準區】						
冬作 大麥 谷風 11中	—	3.00 2.0	大豆粕5 過石10 硫加3 下肥100 堆肥200	3	4	6上旬
夏作 甘藷 金時 3下 5下	3.600 2.0	1.5	棉實4 米糠8 藥灰10	1	3	10下 麥の間へ挿苗
【第一區】						
冬作 蠶豆 一寸 10下	—	12.00 2.5 1.5	過石5 藥灰20 下肥50 棉實5	2	2	6上 二畦飛に一畦空畦とす
夏作 南瓜 印食 3上 5上	0.20 7.5 3.0	堆肥200 種粕5 米糠12 骨粉5 藥灰20 下肥100	1	3	自7上 蠶豆の空畦へ定植	
秋作 大根 方領 8下	—	1.00 2.0 0.8	鱈粕15 骨粉5 藥灰10 硫安5 下肥300	4	3	自11上 至12下
【第二區】						
冬作 小麥 早生小麥 11中下	—	2.00 2.0	大豆粕4 過石5 硫加1.5 下肥80 堆肥150	2	4	6中 三畦飛に一畦空畦とす
夏作 西瓜 大和 4中 5上	0.15 8.0 4.0	堆肥200 鱈粕25 棉實40 硫安5 骨粉8 藥灰20	3	4	自7下 麥の空畦に甲折苗を植付	

秋作 白菜 野崎一號 8下 — 0.40 2.5 1.0 堆肥300 大豆粕10 棉實20 硫安3 骨粉8 藥灰30 人尿300

【第三區】

冬作 甘藷 サダヤ早生 10上 12中 1下 0.08 2.5 1.5 堆肥300 大豆粕20 骨粉5 藥灰20 硫安2 下肥400

夏作 里芋 中生在來 4中 — 40貫 2.5 1.5 堆肥300 大豆粕10 鱈粕10 骨粉5 藥灰20 下肥300

秋作 菠薐草 無稜種 9中 — 3.00 2.5 條 大豆粕10 骨粉5 藥灰20 下肥300

【第四區】

冬作 大麥 谷風 11中下 — 1.00 3-6.0 條 大豆粕2 過石3 硫加1 下肥100 堆肥70

夏作 胡瓜 晚青太 3上 5上 0.15 3.0 1.5 堆肥300 大豆粕10 棉實15 骨粉5 藥灰20 下肥400

秋 葱 九條 9下 8中 0.50 2.0 0.5 堆肥300 大豆粕10 米糠20 骨粉6 藥灰20 人尿400

【第五區】

冬 大麥 谷風 11中下 — 1.00 3-6.0 條 大豆粕2 過石3 硫加1 下肥50 堆肥70

夏作 蕃茄 3上 5上 0.04 3.0 1.5 堆肥300 棉實15 骨粉5 藥灰30 下肥200 硫加3

秋 大根 島 9上 — 1.00 2.0 0.5 鱈粕10 骨粉5 藥灰10 硫安2 下肥300

耕種は勞力節減を主眼とし普通栽培に依り經營せり

試驗成績 (年別成績を省略し平均成績を摘録す)

1 反當收支計算並に直接生産費 (自昭和五年至同八年) 四ヶ年平均

總收入	收 入		副收入	總支出	支 出 内 詳				差 純 額	同 指 引 益	勞 働 力 利 得	同 指 引 上 數	直 生 産 費
	數 量	平均單價			種 苗 費	肥 料 費	勞 力 費	雜 費					
麥	26.47	麥2,838 8.20	麥稈90	20.23	0.30	5.78	13.55	0.60	6.24	—	19.79	—	6.200
甘 藷	37.49	463 0.08	—	21.33	3.78	2.53	15.02	—	16.16	—	31.18	—	0.046
計	63.96			41.56	4.08	8.31	28.57	0.60	22.40	100	50.97	100	
【第一區】													
蠶 豆	32.93	青藷243 0.14	青446	17.22	5.35	4.10	7.84	—	15.71	—	23.55	—	0.052

南瓜	33.91	497 ^石 0.08	—	25.45	0.75	7.10	14.20	3.40	8.46	—	22.66	— ^{1石} 0.051
大根	40.72	大根6.300 ^石 0.006	—	34.09	1.75	10.50	20.13	1.71	6.63	—	26.76	— ^{1石} 0.005
計	107.56	間引菜百貫	—	76.76	7.85	21.70	42.17	5.11	30.80	138	72.97	143

【第一區】

麥	18.49	小麥1.527 ^石 11.00	—	16.31	0.29	4.05	11.38	0.59	2.18	—	13.56	— ^{1石} 9.100
西瓜	94.70	827 ^石 0.10	—	49.00	0.79	22.67	16.82	8.72	45.70	—	62.52	— ^{1石} 0.060
白菜	49.32	白菜1.024 ^石 0.04	—	44.76	2.35	18.50	20.71	3.21	4.56	—	25.27	— ^{1石} 0.040
計	162.51	間引菜1.671把	—	110.07	3.43	45.22	48.91	12.51	52.44	234	101.35	199

【第三區】

甘	37.23	2.185 ^石 0.017	—	37.80	1.54	13.46	22.04	0.76	0.57	—	21.47	— ^{1石} 0.017
里芋	47.68	子芋367 ^石 0.12	—	43.38	8.00	13.65	20.98	0.75	4.30	—	25.28	— ^{1石} 0.100
菠薐草	26.45	3.900 ^石 0.06	—	25.08	1.53	7.25	16.30	—	1.37	—	17.67	— ^{1石} 0.006
計	111.36	親芋176 ^石	—	106.26	11.07	34.36	59.32	1.51	5.10	23	64.42	126

【第四區】

麥	18.85	麥2.282 ^石 7.20	麥稈72 ^石 14.25	0.19	3.86	9.73	0.47	4.60	—	14.33	— ^{1石} 5.300	
胡瓜	69.65	上11.150 ^石 0.005	下8280本69.02	1.24	18.81	42.01	6.96	0.63	—	42.64	— ^{1石} 0.005	
葱	63.13	8.400 ^石 7厘5毛	—	53.10	2.50	17.47	38.13	—	5.03	—	43.11	— ^{1石} 0.007
計	151.63	—	—	141.37	3.93	40.14	89.87	7.43	10.26	46	100.13	196

【第五區】

麥	17.50	麥1.931 ^石 8.00	—	13.21	0.20	3.33	9.18	0.50	4.29	—	13.47	— ^{1石} 6.000
蕃茄	102.49	1.047 ^石 0.10	—	65.13	1.00	15.01	43.92	5.20	37.36	—	81.28	— ^{1石} 0.062
大根	31.12	8.350 ^石 3厘5毛	—	23.58	1.12	7.27	14.82	0.37	7.54	—	22.36	— ^{1石} 0.003
計	151.11	間引菜87 ^石	—	101.92	2.32	25.61	67.92	6.07	49.19	220	117.11	230

◇附記 収入金額は概ね地方仲買商人に拂下たる庭先相場の實收である、岐阜市場相場に比し稍低廉なる憾あり従つて収入金額少きも出荷に便なる地方にして販賣勞力を惜しまない農家又は山間部蔬菜類の高價な地方にありては相當多額の取益を擧げ得るものと信ず。

摘要

年の豊凶、生産技術の如何、價格の騰落等に依り一概に判断する事能はさるも、過去の成績に徴しその概要を述べれば次の如し。

- 1 標準區 麥—甘藷 の如き經營法は最も粗放なる經營にして耕地の豊富なる地方にしてしかも勞力の乏しい者の採るべき方法であつて遂作、失敗等の憂少く貯蔵、販賣等比較的安割割合に純益多い經營法なるも尙も耕地少く勞力過剰の農家は他の經營法を採るを得策と思考せらる。
- 2 一區 蠶豆—南瓜—大根 の如き經營は肥料、勞力の所要比較的少く、純益多き一般的に經營容易且安全なる方法にして蠶豆は殊に肥料勞力の所要少くその莖葉は綠肥又は飼料として

相當價值あり有利なるも莖葉繁茂のため後作南瓜の生育を遅延せしむる嫌あり、早熟栽培とする南瓜の前作としては寧ろ大麥或は葱頭が適當ならん。而して蠶豆、南瓜等は近時水田裏作又は間作として將來發展性あり畑作としての前途は疑はるる。

3 二區 麥—西瓜—白菜 本法は相當の肥料を要するも勞力の所要は比較的少く出荷にも割合容易で収益は最も優位を示せり、西瓜は縣外より多額の移入をされつつある本縣の現状に鑑み相當望せらるる經營にして肥料の所要多きを以て自給肥料或は安價なる化學肥料を施用して生産費の節減を計り縣外品と競争する覺悟が肝要なり。

4 三區 甘藍—里芋—菠薐草 甘藍は肥料の所要多き割合に市價低廉、里芋は畑地に於ては例年七—八月旱魃被害を蒙り成績良好ならず、本法の如きは寧ろ水田經營或は桑園間作によるが安全有利なりと認めらる。

5 四區 麥—胡瓜—葱 本法は勞力、肥料共所要多く特に收穫販賣に勞力を要する事多き故都市附近にして出荷に便なる地方、しかも勞力の潤澤なる農家の採るべき經營法と認めらる而して胡瓜は土地乾燥する畑地よりも水田等に於て適當なる水分を供給し得る地に良品多獲の實を擧げ得る、ものにして、近時水田裏作にして賞揚せらる、所以である、葱は播種より收穫迄の在圃期間長く、従つて生産費重むもの認めらる、收穫期間長く冬季農閑期の勞力利用又は老幼女子の勞力消化には好都合なり(菠薐草、大根等も亦同じ)

6 五區 麥—蕃茄—大根 本法は比較的肥料の所要少く麥及大根にありては勞力少きも夏作蕃茄は收穫販賣の勞力を要する事多い故勞力の豊富なる農家の採るべき經營法なりと認め、而して勞力を含みたる農業利益は前各區に比し最も優れ純益亦多い成績を示せり。以上試験の成績に徴し概要を摘録せるも之が實施に當つては氣候、風土の適否、市場の遠近、交通の便否、勞力の如何等を參酌するは勿論、生産消費市況の趨勢を考慮し生産費を基に適宜取扱選擇經營すると共に勞力の許す限り他の作物を間混作して、より集約なる多毛作經營を工夫し土地の利用率を高め、一面肥料勞力等の生産費の節減と相俟つて單位面積よりの收益増進を圖ること肝要なり。

2 反當所要勞力並にその分配

所要勞力の多寡並にその分配如何は農業經營上最も注意を要する點にして、如何に有利なる作物も中途に手不足を來すが如き事ありては充分なる成績を收め難し所謂二兎を追ふものは一兎をも得ずの譬に終つては甚だ遺憾なるを以て勞力の分配を充分考慮して經營することが肝要なり次に所要勞力並にその分配を掲げ農業經營上の參考に供す。

反當所要勞力並にその分配 (自昭和七年 二ヶ年平均)

標準區	作物	所要勞力										
		育苗	整地	播種又は定植	支柱立誘引	施肥	間引	中耕除草土寄せ等	病虫害防除等	收穫	調製	合計
標準區	麥	—	1.6	1.2	—	1.8	—	3.9	—	2.4	3.1	14.0
	甘藷	—	1.6	1.7	—	0.3	—	5.2	—	8.9	—	17.7
計												31.7
一區	蠶豆	—	0.9	1.4	—	0.6	—	2.3	—	3.6	—	8.8
	南瓜	2.8	1.8	1.3	—	0.5	—	3.8	—	4.0	—	15.2
	大根	—	2.6	1.4	—	3.0	3.2	1.9	2.3	7.5	—	21.9
計												45.9

二區	麥 瓜 西 白 菜	—	1.4	1.8	—	1.5	—	3.0	—	1.9	2.2	11.8
		1.0	2.3	1.9	—	2.1	—	4.4	1.9	4.7	—	18.5
三區	甘 藍 苜 蓿 草	3.8	2.3	4.1	—	3.4	—	2.5	—	6.0	—	23.0
		—	1.1	1.5	—	4.0	—	5.1	—	1.8	13.4	26.9
四區	麥 胡 瓜 蔥	—	0.9	0.8	—	1.4	—	2.9	—	1.5	2.3	9.8
		6.7	2.8	3.8	10.7	4.4	—	3.7	2.6	13.7	—	47.8
五區	麥 蕃 茄 大 計	—	0.8	0.7	—	1.5	—	2.9	—	1.4	2.0	9.5
		8.5	3.0	3.5	12.3	2.3	—	4.2	—	17.4	—	51.3
		—	2.6	1.4	—	2.5	3.2	1.6	0.6	4.0	—	15.9
												76.7

標準區	作物別	月 別 所 要 勞 力												合計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
一區	麥 豆 甘 藍	0.5	0.8	0.9	1.5	—	5.5	—	—	—	—	2.8	2.0	14.0
		—	—	—	—	4.0	1.9	0.9	1.5	—	9.4	—	—	17.7
二區	麥 瓜 西 白 菜	0.5	0.8	0.9	1.5	4.0	7.4	0.9	1.5	—	9.4	2.8	2.0	31.7
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三區	甘 藍 苜 蓿 草	—	0.7	0.3	1.0	0.8	3.0	—	—	—	—	1.8	1.2	8.8
		—	—	1.6	1.9	4.1	2.6	3.0	2.0	—	—	—	—	15.2
四區	麥 胡 瓜 蔥	—	—	—	—	—	—	—	4.0	8.0	2.4	3.0	4.5	21.9
		—	0.7	1.9	2.9	4.9	5.6	3.0	6.0	8.0	2.4	4.8	5.7	45.9
五區	麥 蕃 茄 大 計	0.5	0.7	1.3	1.2	—	4.1	—	—	—	—	2.0	2.0	11.8
		—	—	—	1.2	5.7	5.1	4.0	2.5	—	—	—	—	18.5
六區	甘 藍 苜 蓿 草	—	—	—	—	—	—	—	7.9	6.4	2.5	3.4	2.0	22.2
		0.5	0.7	1.3	2.4	5.7	9.2	4.0	10.4	6.4	2.5	5.4	4.0	52.5
七區	甘 藍 苜 蓿 草	0.8	2.0	0.5	2.2	3.6	4.2	—	—	1.0	2.3	6.4	23.0	
		—	—	—	2.6	0.5	4.0	2.6	2.0	15.2	—	—	—	26.9
八區	麥 胡 瓜 蔥	—	—	—	—	—	—	—	—	5.0	4.1	4.0	5.7	18.8
		0.8	2.0	0.5	4.8	4.1	8.2	2.6	2.0	20.2	6.1	5.3	12.1	68.7
九區	麥 蕃 茄 大 計	0.9	0.6	0.4	1.2	—	3.8	—	—	—	1.2	1.7	9.8	
		—	—	2.8	4.0	21.2	12.0	7.9	—	—	—	—	—	47.9
十區	甘 藍 苜 蓿 草	—	—	—	3.0	—	2.8	—	9.1	3.2	2.9	11.8	12.0	44.8
		0.9	0.6	3.2	8.2	21.2	18.6	7.9	9.1	3.2	2.9	13.0	13.7	102.5
十一區	麥 蕃 茄 大 計	0.9	0.7	0.4	0.9	—	3.4	—	—	—	1.0	2.0	9.5	
		—	—	3.2	5.4	17.0	5.2	11.0	9.5	—	—	—	—	51.3
十二區	甘 藍 苜 蓿 草	—	—	—	—	—	—	—	—	1.4	3.8	1.0	3.7	15.9
		0.9	0.7	3.6	6.3	17.0	8.6	11.0	9.5	1.4	3.8	2.0	5.9	76.7

- 摘 要**
- 標準區は所要勞力少く其の分配も概ね良好粗放經營に適す
 - 一區 本法も比較的所要勞力少く且つその分配も概ね良好にして他の業務例へば米麥作、養蠶等の勞力が重なることが少く如何なる農家にありても經營容易なり
 - 二區 本法も前者と大差なく一般農家に推賞して憚らない經營たりと認めらる
 - 三區 里芋或は蒔草は收穫勞力多きも比較的農閑期に相當する故大なる苦痛を感じざるのみならず里芋は貯藏により隨時農閑期を利用し取出し得る得點あり
 - 四區 本區の如き胡瓜を加へたる經營法は五月、六月の所謂農繁期の所要勞力頗る多い故米麥作、養蠶主體の農家に於ては勞力幅狭する故手間が豊富ならざる限り應用至難に感ぜらる。葱は收穫、調製の勞力多きも蒔草と同様比較的農閑期十二月一二月の長期

に亘り且つ老幼婦女子の勞力利用に適し大なる苦痛を認めず寧ろ冬期の勞力消化には好都合ならん

6 五區 本區蕃茄は勞力所要多きも繁忙期たる六月の所要勞力少く他の業務と抵觸することが胡瓜に比し少いかの感がある

概 評

- 既往の成績を綜的に觀察するに
- 一、比較的有利なる畑作經營法は第五區第二區第一區等なり、而して五區は勞力の所要多く二區は肥料の所要多き傾きあり、一區は粗収入差程大ならざるも勞力肥料等所謂生産費少きを特色とす
 - 一、蕃茄又は胡瓜を加へたる經營法は育苗定植支柱摘心摘芽誘引、或は收穫販賣等の勞力所要最も多きを以て勞力の潤澤なる農家の採るべき様式と信ず、而して七月下旬より八月中旬所謂出荷最盛期には市價暴落するを以て栽培上早熟又は抑留法を考究するを得策とす
 - 一、第二區の如き西瓜白菜を加へたる經營法は所要勞力比較的少しき雖も年により害虫に悩ませらるる事あり、西瓜の瓜守白菜のトビムシ幼虫夜盗虫蛭虫等特に留意し、發生初期に充分防除を行ふ要あり、肥料の所要最も多きを以て堆肥糞尿下肥等の自給肥料又は硫酸等の廉價なる肥料を基礎とし生産費の節減を講ずべし
 - 一、一區の如き經營法は粗収入差程大ならざるも肥料及勞力共に所要少く純益割合に多し、栽培法亦比較的簡單にしてしかも連作に耐ふるを以て一般的に經營容易な方式なり
 - 一、里芋を加へたる經營法は灌水の用意なき處に於ては年により旱魃被害を蒙ることあり寧ろ水田等を利用するを安全なりと思考せらる
 - 一、夏蔬菜は一般に早期生産を得策とす、特に胡瓜、南瓜等はなるべく七月月中旬迄に收穫を終り秋作迄に向一作を挿入する様にし經營の集約化を計るべきなり
 - 一、西瓜南瓜等を栽培する場合生育の初期蔓の蔓延する頃迄を利用し蒔草豆菜豆等を混作することを得
 - 一、夏作蔬菜豫定地に於ける前作(冬作)麥類蠶豆等は作付の際豫め後作蔬菜の種類に鑑み適當なる空間を存し置く様考慮する事肝要にして後作蔬菜を定植する迄の間に於て空間を利用し蒔草、分葱、蒔草等を栽植し經營のより集約化を圖る餘地あり
 - 一、蒔草は生育期間短く應急作物として隨時空地を利用するに適す
 - 一、葱は育苗期間相當永きを以てその間土地勞力肥料等の生産費相重むものなり
 - 一、蒔草、葱等は調製束結に相當の勞力を要するものなれ共夜間又は老幼婦女子の勞役に俟つ場合は經營上大なる苦痛を認めざる
 - 一、蠶豆は勞力肥料の所要少く純益多き冬作なり、其の莖桿は肥料的價値に富む
 - 一、甘藍は肥料を潤澤に施すを要するものなるを以て都市附近の下肥の容易に得らるる地方に適す

柿園(富有柿)經濟調査(反當) ▲印ハ損

年次	作物別	收		入		支		出		差引	勞力含	備 考	
		收	量	金額	種苗費	肥料費	勞力費	雜費	計並				
(大正十四年)	本作 柿	—	—	—	15.00	.88	3.51	—	19.39	▲19.39	▲15.88	昭和14年 3月新植	
	間作 甘藷	311	1	10錢	31.15	1.20	2.74	6.03	—	9.97	21.18		27.21
	合計	—	—	—	31.15	16.20	3.62	9.54	—	29.36	1.79		11.33

第(同)二十五年)	本作 柿	—	—	5.55	5.32	—	10.87	▲10.87	▲5.55	
	間 南瓜	269本 1本8厘	22.15	2.40	9.28	10.44	2.40	24.60	▲2.45	▲7.99
	作 大根	2,800本 1本8厘 間引菜3.58	25.98	1.00	3.37	4.94	—	9.31	16.67	21.61
	計		48.13	3.40	12.65	15.38	2.40	33.91	14.22	29.60
	合計		48.13	3.40	18.20	20.70	2.40	44.78	3.35	24.05

在圃の健販
買せるを以
て收穫努力
を含まず

第(昭)和三二年)	本作 柿	—	—	7.79	6.18	.48	14.45	▲14.45	▲8.27	
	間 甘藍	188本 1本1.157	21.70	1.20	4.59	7.39	—	13.18	8.52	15.91
	作 南瓜	171本 3本 間引菜	22.09	4.11	6.01	12.53	1.40	24.05	▲1.96	10.57
	計		63.53	1.40	12.67	18.56	1.30	28.93	34.60	48.16
	合計		107.32	6.71	23.27	33.48	2.70	66.16	41.16	74.64

1月の嚴寒
にて枝梢凍
傷を蒙り根
本より切斷
更新

第(昭)和四三年)	本作 柿	3ヶ 1ヶ5錢	.15	—	8.04	5.77	—	13.81	13.66	7.89	
	間 ビー ル麥	9斗2升1升 13錢餘 麥屑35 1ヶ4錢	13.77	.26	3.92	6.73	.25	11.16	2.61	9.34	
	作 南瓜	256本 10本1圓	262	31.05	3.60	9.38	10.20	1.38	24.51	6.54	16.74
	計		31.86	.96	17.21	11.06	.70	29.93	1.93	12.99	
	合計		76.68	4.82	30.51	27.99	2.28	65.60	11.08	39.07	

前年地際よ
り再萌芽せ
しめしもの
第2年に相
當

第(昭)和五四年)	本作 柿	222個 上1ヶ3錢 下2錢	6.24	—	11.15	9.11	1.10	21.36	▲15.12	▲.01
	間 小麥	9斗5升1升 17錢 麥屑1圓45錢	16.84	.30	4.15	5.37	.45	10.25	6.59	11.96
	作 南瓜	220本 5本 1圓=9本	24.49	2.80	8.66	9.68	2.00	23.14	1.35	11.03
	計		22.10	1.25	4.03	10.33	.93	16.54	5.56	15.89
	合計		63.43	4.35	16.84	25.38	3.38	49.93	13.50	38.88

第三年目に
地際より更
新のため地
上地下部の
均衡を失し
徒長の感あ
り

第(昭)和六五年)	本作 柿	762個 1ヶ 1錢5厘	9.93	—	4.80	7.89	1.22	13.91	▲3.98	3.91
	間 小麥	9斗2升1石 12圓40錢 麥屑42 10ヶ35錢	12.84	.32	3.06	6.13	.40	9.81	3.03	9.16
	作 南瓜	231本 6本 1圓=付10本	23.16	2.25	7.33	8.22	3.85	21.55	1.61	9.83
	計		15.00	1.20	2.93	9.51	1.40	15.04	▲.04	9.47
	合計		51.00	3.67	13.22	23.86	5.65	46.40	4.60	28.46

前年同様の
感あり

第(昭)和七六年)	本作 柿	2,600個 1ヶ1錢5厘	39.00	—	3.67	14.55	1.47	19.69	19.31	33.86
	間 苺	苺狩35本 21貫1.34 苗1萬 1本1厘	57.08	1.25	3.41	9.89	.56	15.11	41.97	51.86
	作 大麥	7斗4升 1石6圓 麥屑20貫 1貫3錢5厘	5.14	.05	.87	2.70	.20	3.82	1.32	4.02
	計		18.74	2.43	.99	4.53	1.26	9.21	9.53	14.06
	合計		80.96	3.73	5.27	17.12	2.02	28.14	52.82	69.94

間作肥料の
ため徒長の
弊を認む
苺狩とせる
ため收穫力
少し

第(昭)和八七年)	本作 柿	2,520個 1ヶ 0.13 ▲2.070 .008 ▽1.750 .005 73.52	—	2.26	35.31	4.56	42.13	31.39	66.70
	間作 苺	層820 .003 計8.160							
	合計	上55貫6 百匁.07 層10貫5 .02	41.02	7.13	4.05	19.02	2.10	32.30	8.72

前年迄の徒
長に鑑み施
肥量を節す

第(昭)和九八年)	本作 柿	上540個 1ヶ 0.40 中603 .025 下530 .017 46.78	—	12.24	21.87	4.53	38.64	8.14	30.01
	間作 苺	層110 .010 計1.783							
	合計	32貫 1貫.60	19.20	.90	3.32	12.51	.75	17.48	1.72

前年結果數
過多なるに
肥料不足の
感ありため
に本年結果
少し

茶園經濟調查 (反當) ▲印ハ損

年次	作物名	收	入	支	出	差引	勞力+含	備考			
		量	金額	種苗費	肥料費	勞力費	損益				
(大正十四年)	本作茶						41.37	▲5.47			
	間	里芋 1080株 1株5錢	54.00	6.00	3.50	9.88	18.88	35.12	44.50		
	作	甘藍 100貫1圓=付8貫	12.50	1.08	4.17	7.72	12.97	▲.47	7.25		
	計		66.50	7.08	7.67	17.10	31.85	34.65	51.75		
	合計		66.50	10.08	10.14	58.00	73.22	57.72	46.28		
(大正二十五年)	本作茶						10.88	▲5.65			
	間	里芋 417株 1株3錢	12.50	2.00	1.23	5.33	8.56	3.94	9.27		
	作	白菜 89貫2 1貫10錢	8.92	.20	2.34	2.86	.50	5.90	3.02	5.88	
	計	甘藍 282貫 1圓=8貫	35.26	.20	5.20	5.44	-10.84	24.42	29.86		
	合計		62.03	2.65	9.94	16.92	.50	30.01	32.02	48.94	
(昭和三年)	本作茶						10.88	▲5.65	製茶設備なく勞力不足の爲生業にて販賣		
	間	1番茶 7貫820	8.06		.75	9.32	-10.07	2.01		7.31	
	作	番茶 41貫									
	計	圓=8貫8									
	間	胡瓜 2400本	30.08	.80	6.23	23.06	-30.09	▲0.01		23.05	
	作	胡麻 1斗5升	6.00	.07	.54	4.32	-	4.93		1.07	5.39
	計	愛知白菜 237貫	13.50	.08	2.15	3.24	-	5.47		8.03	11.27
	作	宮重大根 310貫	12.00	.04	1.10	2.01	-	3.51		8.49	10.50
	計	甘藍 83貫	13.84	.37	11.70	8.41	-20.48	▲6.64		1.77	
	合計		75.42	1.72	21.72	41.04	-64.48	10.94		51.98	
(昭和四年)	本作茶						15.40	▲6.40	1.57	前年同様	
	間	茶 13貫971	9.00		6.38	7.97	1.05	15.40	▲6.40	1.57	
	作	小豆 2斗5升3合	8.88	.41	-	7.58	-	7.99	.89	8.47	
	計	大根 2814本 1本1錢	30.74	.30	4.07	10.63	-14.99	15.75	26.37		
	合計		64.62	3.59	14.30	31.32	1.51	50.72	13.90	45.22	

(昭和四年)	本作茶	1番茶 17貫7	21.75	-	15.71	20.92	3.00	39.63	▲18.06	2.86	前年同様
	間	2番茶 15									
	作	番茶 43貫7									
	計	1貫55錢									
	合計	1貫26錢									
	合計	1貫18錢									
(昭和五年)	茶	1番茶 33貫3	19.49	-	7.18	12.06	-	19.24	.25	12.31	前年同様 2, 3番茶の 生葉販賣先 なきを以て 摘採せず
	間	2番茶 77貫2									
	作	1貫08錢									
	計										
	合計										
(昭和六年)	茶	1番茶 42貫5	24.50	-	3.00	20.13	2.46	25.59	▲1.09	19.04	前年同様 施肥量不足 の爲收穫量 少し
	間	2番茶 75貫									
	作	1貫10錢									
	計										
	合計										
(昭和七年)	茶	1番茶 60貫	20.70	-	3.67	26.92	-	30.59	▲9.89	17.03	前年同様
	間	2番茶 54貫									
	作	1貫05錢									
	計										
	合計										
(昭和八年)	茶	1番茶 35貫	33.98	-	19.13	22.49	-	41.62	▲7.64	14.85	
	間	2番茶 116貫									
	作	番茶 36貫									
	計	1貫10錢									
	合計										

主要作物直接生産費資料調査 (昭和八年)

- 一、生産費は物價の變動土地の状況、従業者の能力の如何等に依り多少の差異あるは勿論なるも茲に昭和八年度當場經濟農場に於て調査せる收支状況を掲載し直接的生産費を窺ふ資料とす
- 一、收入 生産物は勞力或は服務時間等の關係に依り他に出荷の煩を避け概ね地方仲買商人へ拂下たる庭先相場の實收を計上せるものにして岐阜市場相場（當場より市場迄約二里）に比し價格低廉にして收入金額少き感あり、假りに市場へ出荷せりとせばより多くの收入を期待し得るも同時に運賃或は出荷販賣の勞力費等の支出も多少重むは當然なり
- 一、支出 購入せる種苜 肥料 雜費は時價に依り自給のものは見積を以て計上せり勞力は當場農夫及練習生の作業時間を基とし八時間を以て一日に換算したるものなり

水稻收支計算 (紫雲英跡反當)

收入の部				摘要		備考		
品名	數量	單價	金額					
米	2石829	1石22.50	63.65	下種	5月5日	前作紫雲英跡地にして整地は畜力利用とす 土地瘠薄のため肥料の所要比較的 多し		
女批榮	0.800	1.10	.88	補付	6月27日			
合計	155.000	10.35	5.42	收穫	11月15日			
合計				69.15				
支出の部				摘要		備考		
品名	數量	單價	金額					
種子	1升8合	1升15	.27	品種	神力11號	勞力内譯		
紫雲英(生)	300斤	10.10	3.00	元肥		作業別	畜力 男 女	
石灰	20	.48	.96	同		苗育成	.08 1.20 .20	
肥	5	3.95	1.97	同		畦畔整理	— .75 —	
料	1.5	2.80	.42	同		整地	1.25 1.31 —	
費	4	2.83	1.13	同		苗取	— — 1.00	
費	3	1.09	.33	元肥及追肥	7月1回	積付	— .50 1.25	
費	2.5	6.55	1.64	同		施肥	— .37 1.00	
費	5	2.80	1.40	同		中耕除草	— .62 2.50	
小計			11.60	同		灌排水	— 1.00 —	
勞力	1日33	1日2.00	2.66	内譯左表の通		收穫	— 2.50 1.50	
費	11人24	1.00	11.24	9		乾燥調製	— 1.62 1.75	
費	9人32	.70	6.52			包裝	— .62 —	
小計			21.12			計	1.33 11.24 9.32	
雜費	7依分	.20	1.40	内外依及繩				
合計			34.99					
(收支差引)			34.76	益				

小麦收支計算 (水田裏作反當)

收入の部				摘要		備考		
品名	數量	單價	金額					
小麦	1石900	1石14.50	27.55	下種	10月29日	中9尺 高畦 縦2條播		
合計	97斤	10.35	3.39	收穫	6月10日			
合計				30.94				
支出の部				摘要		備考		
品名	數量	單價	金額					
種子	2升4	1升15	.36	品種	早生小麦	勞力内譯		
肥	150斤	.10	1.50	播種の際施用		作業別	畜力 男 女	
料	15	.55	.82	同		整地	1.00 2.50 —	
費	20	.75	1.50	2-3月追肥		下種	— .91 .61	
費	7	1.24	.86	同		施肥	— 1.75 —	
費	2	6.90	1.38	同		中耕除草	.12 3.41 1.25	
費	240	.10	2.40	同		土入土寄	— 1.68 .24	
小計			8.42			收穫	— 1.75 .75	
勞力	1日12	2.00	2.24	内譯左表の通		乾燥調製	— 1.25 1.25	
費	13人85	1.00	13.85			包裝	— .62 —	
費	4人30	.70	3.01			計	1.12 13.85 4.30	
小計			19.12					
雜費	4.5依分	.20	.90					
合計			28.84					
(收支差引)			2.10	益				

- 一、生産費は物價の變動土地の状況、従業者の能力の如何等に依り多少の差異あるは勿論なるも茲に昭和八年度當場經濟農場に於て調査せる收支状況を掲載し直接的生産費を窺ふ資料とす
- 一、收入 生産物は勞力或は服務時間等の關係に依り他に出荷の煩を避け概ね地方仲買商人へ拂下たる庭先相場の實收を計上せるものにして岐阜市場相場（當場より市場迄約二里）に比し價格低廉にして收入金額少き感あり、假りに市場へ出荷せりとせばより多くの收入を期待し得るも同時に運賃或は出荷販賣の勞力費等の支出も多少重むは當然なり
- 一、支出 購入せる種苜 肥料 雜費は時價に依り自給のものは見積を以て計上せり勞力は當場農夫及練習生の作業時間を基とし八時間を以て一日に換算したるものなり

水稻收支計算 (紫雲英跡反當)

收入の部				備考	
品名	數量	單價	金額	摘要	
玄米	2石829	1石22.50	63.65	下種 5月5日	前作紫雲英跡地にして整地は畜力利用とす 土地瘠薄のため肥料の所要比較的 多し
玄批	0石800	1石 .10	.08	植付 6月27日	
合 計	155.000	10石 .35	5.42	收穫 11月15日	
69.15					
支出の部				備考	
品名	數量	單價	金額	摘要	
種子	1升8合	1升.15	.27	品種神力11號	勞力内譯
紫雲英(生)	300斤	10斤.10	3.00	元肥	
灰	20	.48	.96	同	作業別
石鹼	5	3.95	1.97	同	畜力
硫磺	1.5	3.80	.57	同	男
骨粉	4	2.83	1.13	同	女
過磷酸	3	1.09	.33	元肥及追肥	苗育成
硫酸加里	2.5	6.55	1.64	同 7月1回	畦畔整理
棉實	5	2.80	1.40	同	整地
苗代肥料	各種		.60	同	苗取
小計			11.60		植付
勞力	畜力 1日33	1日2.00	2.66	内譯左表の通り	施肥
費	男 11人24	1.00	11.24		中耕除草
	女 9人32	.70	6.52		灌排水
小計			21.12		收穫
雜費	繩及依 7依分	.20	1.40	内外依及繩	乾燥調製
合 計			34.39		包裝
(收支差引)			34.76	益	計

小麦收支計算 (水田裏作反當)

收入の部				備考	
品名	數量	單價	金額	摘要	
小麦	1石900	1石14.50	27.55	下種10月29日	巾6尺 高畦 縱2條播
合 計	97斤	10斤 .35	3.39	收穫 6月10日	
30.94					
支出の部				備考	
品名	數量	單價	金額	摘要	
種子	2升4	1升.15	.36	品種早生小麦	勞力内譯
堆糞	150斤	.10	1.50	播種の際施用	
肥	15	.55	.82	同	畜力
雞糞	20	.75	1.50	2-3月追肥	男
過磷酸	7	1.24	.86	同	女
硫酸加里	2	6.90	1.38	同	整地
下肥	240	.10	2.40	同	下種
小計			8.42		施肥
勞力	畜力 1日12	2.00	2.24	内譯左表の通り	中耕除草
費	男 13人85	1.00	13.85		土入土寄
	女 4人30	.70	3.01		收穫
小計			19.12		乾燥調製
雜費	依及繩 4.5依分	.20	.90		包裝
合 計			28.84		計
(收支差引)			2.10	益	



菜種 收支計算 (水田裏作反當)

収入の部

品 種	数 量	単 價	金 額	摘 要
菜 種	1石428	18.00	25.70	下種 9月15日
稈 計	114	.10	1.14	定植 12月 5日
合 計			26.84	收穫 6月16日

支出の部

品 種	数 量	単 價	金 額	摘 要
種 子	5勺	.10	.01	品種吾妻
肥 料	堆肥 300	.10	3.00	追肥 2月
	大豆粕 10	3.04	3.04	配合して
	過燐酸加里 10	1.24	1.24	追肥
	硫酸加里 2	6.90	1.38	元肥
	下苗肥料 15	.55	.82	4回分施
	各種肥料 240	.10	2.40	
小 計			12.88	
勞力費	畜力 1日12	2.00	2.24	内譯左表の通り
	人力 男 17人37	1.00	17.37	
	女 4人18	.70	2.92	
小 計			23.53	
雜費	叭及繩 3	.10	.30	
合 計			35.70	
(差 引)			8.88	損

備 考
植付株數反當2160株 巾6尺 高畦
小畦間2尺5寸(3株植)

勞 力 内 譯

作業別	畜力	男	女
苗 育 成	—	2.45	—
整 地	1.00	3.87	—
定 植	—	1.25	1.25
施 肥	—	2.93	.43
中耕除草	.12	3.75	—
土入土寄	—	.87	—
收 穫	—	1.25	—
乾燥調製	—	.80	2.50
包 裝	—	.20	—
計	1.12	17.37	4.18

甘 藍 收支計算 (水田裏作反當)

収入の部

品 種	数 量	単 價	金 額	摘 要
甘 藍(上)	460個	.03	13.80	下種 9月25日
(中)	500	.02	10.00	定植 12月19日
(下)	650	.01	6.50	收穫 5月29日
合 計	1610		30.30	6月 4日

支出の部

品 種	数 量	単 價	金 額	摘 要
種 子	3勺	3.50	1.05	品種中野早生
肥 料	堆肥 300	.10	3.00	2月追肥とす
	灰 20	.55	1.10	原肥
	大豆粕 10	3.04	3.04	配合して 2月
	過燐酸加里 5	1.24	.62	追肥
	硫酸加里 1	6.90	.69	7回分施
	下苗肥料 540	.10	5.40	
小 計			15.75	
勞力費	畜力 1日12	2.00	2.24	内譯左表の通り
	人力 男 18人42	1.00	18.42	
	女 2人68	.70	1.87	
小 計			22.53	
合 計			39.33	
(差 引)			9.03	損

備 考
植付株數反當2160株 苗大に過ぎ
抽苔せるものあり 巾6尺高畦 小
畦間2尺5寸(3株植)

勞 力 内 譯

作業別	畜力	男	女
苗 育 成	—	2.50	—
整 地	1.00	3.00	—
下種定植	—	1.50	1.50
施 肥	—	4.18	.68
中耕除草	.12	2.12	.50
土入土寄	—	.75	—
收 穫	—	4.37	—
計	1.12	18.42	2.68

葱 頭 收支計算 (水田裏作反當)

収入の部

品 種	数 量	単 價	金 額	摘 要
葱 頭	580	1.08	46.40	下種 9月15日
合 計			46.40	定植 11月24日 收穫 6月20日

支出の部

品 種	数 量	単 價	金 額	摘 要
種 子	5合	.50	2.50	品種黄平玉
肥 料	大豆 粕 10	10.00	3.04	元肥
	大堆下 200	.10	2.00	4回分施
	燐肥 240	.10	2.40	元肥及 4月追
	過燐酸加里 4.5	3.88	1.72	肥
	硫酸加里 11	1.24	1.36	
	下苗肥料 2	6.90	1.38	
	各種肥料		.80	
小 計			12.70	
勞力費	畜力 1日12	2.00	2.24	内譯左表の通り
	人力 男 18人92	1.00	13.92	
	女 12人12	.70	8.48	
小 計			24.64	
合 計			39.84	
(差 引)			6.56	益

備 考
巾6尺高畦 縦4條植
施肥量不足の感あり收量少し

勞 力 内 譯

作業別	畜力	男	女
苗 育 成	—	2.05	—
整 地	1.0	2.75	—
定 植	—	1.50	3.00
一 肥	—	3.25	.75
中耕除草	.12	1.12	3.37
土 寄	—	.75	—
收 穫	—	2.50	—
乾燥調製	—	—	5.00
計	1.12	13.92	12.12

蠶 豆 收支計算 (水田裏作反當)直播

収入の部

品 種	数 量	単 價	金 額	摘 要
青 蠶 豆	171	1.14	23.94	下種 10月28日
稈 計	350	.01	3.50	
合 計			37.44	收穫 6月1日 8月8日

支出の部

品 種	数 量	単 價	金 額	摘 要
種 子	1斗	1升.40	4.00	品種一寸
肥 料	灰 15	10.55	.82	元肥
	下燐酸加里 60	.10	.60	1月追肥
	過燐酸加里 10	1.24	1.24	2月追肥
	硫酸加里 3	6.90	2.07	
小 計			4.72	
勞力費	畜力 1日12	2.00	2.24	内譯左表の通り
	人力 男 10人36	1.00	10.36	
	女 4人03	.70	2.82	
小 計			15.42	
雜費	粗 殼 50	.20	1.00	
合 計			25.14	
(差 引)			2.30	益

備 考
巾6尺間畦 縦2條 株間1尺5寸
徒長の感あり收量少し

勞 力 内 譯

作業別	畜力	男	女
整 地	1.00	2.75	—
下 種	—	.75	1.25
施 肥	—	.62	—
中耕除草	0.12	2.62	.50
土 寄	—	.91	2.37
收 穫	—	1.25	1.25
跡 片 付	—	—	.75
計	1.12	10.36	4.08

苳 收 支 計 算 (水田裏作反當)

収入の部				摘要	備考
品名	数量	単價	金額		
苳	103 ^石 2	.60	61.92	假植9月10日 定植11月27日 收穫5月20日迄 收穫6月5日迄	土地乾燥に過ぎ収量劣る 巾6尺高畦 4條植株間1尺 反當植付苗株7300株
合計					
支出の部				摘要	備考
品名	数量	単價	金額		
種 苗	8000本	10本.005	4.00	品種名古屋大實	勞力内譯
肥 料	堆肥 300 ^匁 大豆粕 8 磷酸加里 5 硫酸加里 5 硫酸加里 2.5 下育苗肥料 180	.10 3.04 1.24 2.60 6.90 .10	3.00 2.48 .62 1.30 1.72 1.80	元肥 3月追肥 3回分施	
勞力費	畜力 1日12 人力 男 13人17 女 40人10	2.00 1.00 .70	2.24 13.17 28.07	内譯左表の通り	
小計			13.17		
雜費	藁 108 ^匁	.35	3.78		
合計			64.43		
(差引)		2.51		損	

裸 麥 收 支 計 算 (畑作反當)

収入の部				摘要	備考
品名	数量	単價	金額		
麥	2石288	1石11.76	26.90	下種11月21日	前作大根肥料残効ある見込にて施肥量を節せり
稈	83 ^匁	.35	2.90	收穫6月6日	
合計			29.80		
支出の部				摘要	備考
品名	数量	単價	金額		
種 子	2升5	.12	.30	品種白珍子	勞力内譯
肥 料	過磷酸加里 10 ^匁 硫酸加里 3 下 188	1.24 6.90 .10	1.24 2.07 1.80	前年蔬菜跡地に付肥料少し普通畑にては堆肥300 ^匁 大豆粕10 ^匁 位追施を要す大根中へ播種	
小計			5.11		
勞力費	人力 男 10人00 女 5人25	1.00 .70	10.00 3.67	内譯左表の通り	
小計	15.25		13.67		
雜費	依及繩 5個分	.10	.50		
合計			19.58		
(差引)		10.22		益	

裸 麥 收 支 計 算 (畑作反當) 三分の一利用

収入の部				摘要	備考
品名	数量	単價	金額		
麥	0.985石	11.76	11.58	下種11月21日	跡作蔬菜の關係により6尺毎に1條播まし空畦に蔬菜を間作す麥の利用面積は3/4なり
稈	85 ^匁	.35	1.22	收穫6月6日	
合計			12.80		
支出の部				摘要	備考
品名	数量	単價	金額		
種 子	.1升	.12	.12	品種白珍子	勞力内譯
肥料費	下過磷酸加里 60匁 硫酸加里 3匁3 1匁0	.10 1.24 6.90	.60 .41 .69	前作蔬菜肥料残効のため施肥量を節す	
小計			1.70		
勞力費	人力 男 3人38 女 1人48	1.00 .70	3.38 1.03	内譯左表の通り	
小計	4.86		4.41		
合計			6.43		
(收支差引)		6.37		益	

蠶 豆 收 支 計 算 (畑作反當) 三分の二利用

収入の部				摘要	備考
品名	数量	単價	金額		
蠶豆(上)	164匁	0.15	24.60	下種10月10日	徒長繁茂に過ぎ結果劣る 2尺5寸畦まし2畦毎に1畦空畦を設け跡作南瓜定植にそなふ蠶豆利用面積3/4なり
(下)	16匁4	.10	1.64	定植10月28日	
稈	430匁0	.01	4.30	收穫5月31日 6月8日	
合計			30.54		
支出の部				摘要	備考
品名	数量	単價	金額		
種 子	1斗2	.40	4.80	品種1寸	勞力内譯
肥料費	藥下 20匁 灰肥 50匁 過磷酸加里 10匁 硫酸加里 3匁	.55 .10 1.24 6.90	1.10 .50 1.24 2.07	元肥 1月追肥 2月追肥	
小計			4.91		
勞力費	人力 男 5人50 女 4人18	1.00 .70	5.50 2.92	内譯左表の通り	
小計	9人68		8.42		
合計			18.63		
(收支差引)		11.91		益	

甘藍收支計算 (畑作反當)

収入の部				摘要	備考
品名	数量	単価	金額		
甘藍(上)	1360個	.022	29.92	下種10月1日 定植12月22日	備考
甘藍(下)	1080	.010	10.80		
合計	2440個	—	40.72	收穫5月26日 6月4日	
支出の部				摘要	備考
品名	数量	単価	金額		
種子	3匁	3.50	1.05	品種中野早生	畦巾2尺5寸株高1尺5寸 反當苗數 2880株 4月下旬畦間へ里芋を植付く
肥料費	堆肥 300匁 大豆 10 大過燻下 5 燻下 20 育苗肥料 400 各種	.10 3.04 1.24 .55 .10	3.00 3.04 .62 1.10 4.00	2月追肥 同 元肥 5回分施	
小計			12.34		
勞力費	畜力 日50 人力 男14人89 女 5人95	2.00 1.00 .70	1.00 14.89 3.76	内譯左表の通り	
小計	20.76	—	19.65		
合計 (收支差引)			7.88	益	

勞力内譯

作業別	畜力	男	女
育苗成	—	.90	2.50
整地	2.50	1.50	—
定植	—	2.25	2.00
施肥	—	3.00	.87
中耕除草	—	1.87	—
土入土寄	—	.87	—
收穫	—	4.50	—
計	.50	14.89	5.37

茄子收支計算 (畑作反當)

収入の部				摘要	備考
品名	数量	単価	金額		
茄子	50955本	100個 .15	76.43	下種3月3日 定植5月10日 收穫6月16日 8月17日	土地乾燥灌水充分ならず 畦巾3尺株間1尺5寸 反當植付株 數2400株
支出の部				摘要	備考
品名	数量	単価	金額		
種子	1合	.80	.80	品種極田	勞力内譯
肥料費	堆肥 300匁 大豆 10 大骨種 5 燻下 20 燻下 30 育苗肥料 380	.10 2.28 2.75 3.08 .55 .10	3.00 2.28 1.84 6.06 1.65 3.80	元肥 同 同 追肥2回 元肥及追肥 追肥6回分施	
小計	—	—	21.03		
勞力費	人力 男28人52 女 19人61	1.00 .70	28.52 13.72	内譯左表の通り	
小計	48.13	—	44.24		
雜費	育苗材料 各種 藥劑 同	— —	1.80 1.00		
小計	—	—	2.80		
合計 (差引)			9.56	益	

勞力内譯

作業別	男	女
育苗成	7.90	—
整地	1.75	1.62
定種	1.25	2.25
施肥	2.75	—
中耕除草	1.25	1.25
灌水	2.00	—
支柱立	1.00	1.37
摘芽誘引	—	—
藥劑教師	.62	.62
收穫	11.00	10.00
跡片付	—	1.50
計	28.52	19.61

胡瓜收支計算 (畑作反當)

収入の部				摘要	備考
品名	数量	単価	金額		
胡瓜(上)	10.616本	.005	53.08	下種3月1日 定植5月10日 收穫6月12日 7月30日	土地乾燥灌水充分ならず 畦巾3尺株間1尺5寸 反當2400株 植支柱屋根形とす
胡瓜(下)	8.250	.002	16.50		
合計	18.866	—	69.58		
支出の部				摘要	備考
品名	数量	単価	金額		
種子	15匁	.70	1.05	品種晚青太	勞力内譯
肥料費	堆肥 300匁 油粕 360 大豆 20 大骨種 10 燻下 30 燻下 5 育苗肥料 各種	.10 3.60 3.03 2.28 .55 2.75	3.00 3.60 6.06 2.28 1.65 1.37 2.40	元肥 6回分施 2回分施 元肥 同及追肥1回 元肥	
小計			20.36		
勞力費	人力 男29人39 女 21.24	1.00 .70	29.36 14.86	内譯左表の通り	
小計	50.43	—	44.25		
雜費	苗床材料 各種 支柱材料 同	— —	1.80 3.60		
小計	—	—	1.20		
合計 (收支差引)			2.37	損	

勞力内譯

作業別	男	女
育苗成	7.90	—
整地	2.12	1.25
定植	1.25	1.25
施肥	2.25	—
中耕除草	2.00	—
灌水	2.50	—
支柱立	3.75	11.12
摘芽誘引	—	—
藥劑撒布	.62	.62
收穫	6.00	6.00
跡片付	1.00	1.00
計	29.39	21.24

トマト收支計算 (畑作反當)

収入の部				摘要	備考
品名	数量	単価	金額		
トマト	13.28匁	1匁 .06餘	80.44	下種3月3日 定植5月8日 收穫7月2日 8月16日	畦巾3尺 株間1尺5寸 反當2400 株植 支柱屋根形作りとす
支出の部				摘要	備考
品名	数量	単価	金額		
種子	4匁	.30	1.20	品種ベストオブオール	勞力内譯
肥料費	堆肥 300匁 燻下 15 大豆 5 大骨種 30 燻下 3 燻下 180 育苗肥料 各種	.10 3.03 2.75 .55 6.88 .10	3.00 4.54 1.87 1.65 2.06 1.80	元肥 元肥及追肥2回 元肥及追肥1回 同 追肥2回 元肥及追肥2回	
小計	—	—	17.12		
勞力費	人力 男29人43 女 25人49	1.00 .70	29.43 17.84	内譯左表の通り	
小計	54人92	—	47.27		
雜費	育苗材料 各種 支柱材料 同	— —	1.20 3.20		
小計	—	—	4.40		
合計 (差引)			10.45	益	

勞力内譯

作業別	男	女
育苗成	7.43	—
整地	2.25	.37
定植	1.25	2.50
施肥	1.25	—
中耕除草	1.25	1.37
支柱立	3.75	11.50
摘芽誘引	—	—
收穫	8.75	8.75
跡片付	1.00	1.00
計	29.43	25.49

西瓜收支計算 (畑作反當)

収入の部				備考	
品名	数量	単價	金額	摘要	
(上)	252個	378	1.10	37.80	下種 4月15日
(中)	256	285	.09	25.65	甲折苗
(下)	264	160	.08	13.20	移植 5月2日
(屑)	123	—	1.02	2.45	收穫 7月24日
合計				79.00	8月20日
支出の部				備考	
品名	数量	単價	金額	摘要	
種子	1合5	1.00	1.50	品種新大和	
肥料費	堆肥 300	.10	3.00	追肥	
	灰 20	.55	1.10	元及追肥 1回	
	粕 25	3.05	7.62	配合シテ 3回	
	實 34	2.21	7.51	分施	
	骨粉 5	3.60	1.80		
	安粉 4	2.75	1.10		
小計			22.13		
勞力費	人力 14人	1.00	14.67	内譯左表の通り	
	男女 3人	.70	2.79		
小計	18人		17.46		
雜費	麥 125	.30	3.75		
	藥 各種	—	1.90		
小計			5.65		
合計			46.74		
(差引)			32.26	益	

南瓜收支計算 (畑作反當)

収入の部				備考	
品名	数量	単價	金額	摘要	
(上)	1070ヶ	495	10.75	37.12	下種 3月3日
(下)	242	283	.30	8.49	定植 5月8日
合計	778			45.61	收穫 7月12日
					8月8日
支出の部				備考	
品名	数量	単價	金額	摘要	
種子	15勺	.40	.60	品種黒皮早生	
肥料費	堆肥 300	.10	3.00	元肥	
	灰 5	3.03	1.51	同	
	粕 8	.96	.76	同	
	骨粉 5	2.75	1.37	同	
	灰 20	.55	1.10	同	
	骨粉 70	.10	.70	元肥及追肥 1回	
	苗肥料 各種	—	.80		
小計			9.24		
勞力費	人力 11人	1.00	11.97	内譯左表の通り	
	男女 3人	.70	2.31		
小計	15.27		14.28		
雜費	苗床材料 各種		.60		
	麥 125	.30	3.75		
小計			4.35		
合計			28.47		
(差引)			17.14	益	

里芋收支計算 (畑作反當)

収入の部				備考	
品名	数量	単價	金額	摘要	
上付子芋	409	.10	40.90	下種 4月25日	
同親芋	260	.04	10.40		
合計	769		51.30	收穫 9月24日	
				10月2日	
支出の部				備考	
品名	数量	単價	金額	摘要	
種芋	40	.15	6.00	品種中生在來	
肥料費	堆肥 300	.10	3.00	追肥1回	
	大 10	2.28	2.28	同	
	豆 10	3.05	3.05	同	
	骨粉 5	2.75	1.37	同	
	灰 20	.55	1.10	元肥	
	灰肥 240	.10	2.40	追肥3回	
小計			13.20		
勞力費	人力 11人	1.00	11.30	内譯左表の通り	
	男女 18人	.70	13.16		
小計	30.10		24.46		
合計			48.66		
(差引)			7.94	益	

甘藷收支計算 (畑作反當)

収入の部				備考	
品名	数量	単價	金額	摘要	
甘藷上	452	.09	40.68		
下	53	.05	2.65	定植 5月24日	
合計	505		43.33	收穫 9月26日	
支出の部				備考	
品名	数量	単價	金額	摘要	
藷苗	3600本	.10	3.60	品種金時	
肥料費	米 糞 10	.96	.96	追肥1回	
	灰 10	.55	.55	同	
小計			1.51		
勞力費	人力 9人	1.00	9.12	内譯左表の通り	
	男女 4人	.70	3.31		
小計	13人		12.43		
合計			17.54		
(差引)			25.79	益	

白菜收支計算 (畑作反當)

収入の部				備考			
品名	数量	単価	金額	摘要	備考		
白菜上	1750個	688	1,050.00	下種8月25日	市價低廉なり		
白菜中	1560	356	550.00	穫(12月20日)			
白菜下	1280	128	163.20	穫(12月25日迄)			
間引菜	1000把	1把.0058	5.80				
合計			60.50				
支出の部				備考			
品名	数量	単価	金額	摘要	備考		
種子	4合	.80	3.20	品種野崎1號	労力内譯		
石灰肥	20	.48	.96	元肥	整地	.50	2.00
堆肥	500	.10	5.00	同	下種	.62	.62
大豆粕	20	2.70	5.40	同	施肥	4.50	.50
棉實粕	20	2.18	4.36	追肥2回	中耕除草	2.50	—
骨粉	8	2.25	2.04	元肥	灌水	.50	—
葉下肥	30	.58	1.74	元肥及追肥1回	間引	—	4.50
硫酸	320	.10	3.20	追肥5回分施	藥劑撒布	2.75	3.25
小計	4.1	3.33	1.36	追肥3回分施	收穫	2.50	2.50
合計			24.06		計	.50	15.37
労力	畜力	.50	2.00	1.00	内譯左表の通り		
人力	男	15人37	15.37	7.95			
人力	女	11人37	7.95	24.32			
小計		27.24	24.32				
雜費	藥劑	各種	4.27	硫酸鉛1封度			
				カゼイン半封			
				ネオトロン2罐			
				石鹼3個			
合計			55.85				
(差引)			4.65	益			

葱收支計算 (畑作反當)

収入の部				備考			
品名	数量	単価	金額	摘要	備考		
葱	8100把	1把.007	56.700	下種9月20日 假植4月20日 定植8月10日 收穫10月10日 收穫2月25日迄	9月20日下種翌年4月20日假植育苗 せるものを定植假植圃は本圃面積 の1乃至1/2を要するを以て従つて 育苗經費重む束の大きさは市場向より 大なり		
支出の部				備考			
品名	数量	単価	金額	摘要	備考		
種子	5合	.50	2.50	品種九條葱	労力内譯		
堆肥	500	.10	5.00	追肥	作業別	畜力	男
石灰肥	20	.48	.96	元肥	育苗成	4.08	1.9
大豆粕	10	2.70	2.70	同	整地	.50	2.37
棉實粕	2	3.33	.66	同	定植	1.35	1.35
葉下肥	30	.90	1.80	追肥2回分施	施肥	2.12	.50
骨粉	6	2.18	1.30	同	除草	—	3.62
硫酸	30	.58	1.69	同	土寄	—	2.50
育苗及假植圃肥料各種	180	.10	1.80	追肥3回分施	收穫調製	7.50	15.00
小計			20.12		計	.50	20.32
労力	畜力	.50	2.00	1.00	内譯左表の通り		
人力	男	20人32	15.09	20.32			
人力	女	21.56	7.0	36.41			
小計		42.38	36.41	59.02			
(差引)			5.32	損			

大根(方領)收支計算 (畑作反當)

収入の部				備考			
品名	数量	単価	金額	摘要	備考		
大根上下	4500	.004	18.00	下種8月25日	土地淺く根部曲り易く肌良ならず		
間引菜	1800	.003	5.40	收穫11月5日			
合計	100	.008	8.00	收穫12月25日迄			
合計			44.40				
支出の部				備考			
品名	数量	単価	金額	摘要	備考		
種子	1升	2.00	2.00	品種方領大根	労力内譯		
石灰肥	20	.48	.96	元肥	作業別	畜力	男
堆肥	300	.10	3.00	追肥	整地	.50	2.25
骨粉	5	2.55	1.27	同	下種	.50	.50
葉下肥	4	3.33	1.33	同	施肥	3.68	.43
硫酸	240	.10	2.40	同	中耕除草	2.25	—
小計			13.91	同	間引	—	3.50
労力	畜力	.50	2.00	1.00	藥劑撒布	2.00	2.00
人力	男	14人43	14.43	7.12	收穫	3.75	3.75
人力	女	10人13	7.12	22.55	計	.50	14.43
小計	25人11		22.55		内譯左表の通り		
雜費	藥劑	各種	2.25	硫酸鉛4封度			
				カゼイン2封度			
				ネオトロン1罐			
				石鹼1個			
合計			40.71				
(差引)			3.69	益			

大根(島大根)收支計算 (畑作反當)

収入の部				備考			
品名	数量	単価	金額	摘要	備考		
漬物大根	8500本	1本.004	34.00	下種9月5日	地方農家の漬物用として需要多く 比較的有利なり		
間引菜	180	1把.025	4.50	收穫12月5日			
合計			38.50				
支出の部				備考			
品名	数量	単価	金額	摘要	備考		
種子	1升	1.50	1.50	品種島大根	労力内譯		
石灰肥	20	.48	.96	元肥	作業別	畜力	男
堆肥	15	3.30	4.95	追肥	整地	.50	2.25
骨粉	5	2.55	1.27	同	下種	.50	.50
葉下肥	10	.58	.58	同	施肥	2.75	—
硫酸	240	.10	2.40	同	中耕除草	1.87	—
小計	0.5	3.30	.16	同	間引	—	4.25
労力	畜力	.50	2.00	1.00	藥劑撒布	-.87	.87
人力	男	10人11	10.11	5.24	收穫	1.87	1.87
人力	女	7人49	7.0	16.35	計	.50	10.11
小計	18-10		16.35		内譯左表の通り		
雜費	硫酸鉛	2.5	.75	.75			
藥劑	カゼイン	1.2	.30	.30			
小計			1.05				
合計			29.22				
(差引)			9.28	益			

菠蓆草收支計算 (畑作反當)

収入の部				備考	
品名	数量	単価	金額	摘要	
菠蓆草	3600把	1把.007	25.20	下種10月4日 收穫12月20日迄 2月25日迄	播種期遅れ(前作里芋)たるため収 量少きも在圃期間短き特色あり
支出の部				備考	
品名	数量	単価	金額	摘要	労力内譯
種子	2升	.70	1.40	品種在來種	作業別 男 女
肥料費	灰 20斤 大豆粕 10 粉下 5 肥 120	.58 2.70 2.55 .10	1.16 2.70 1.27 1.20	元肥 追肥 1回 同 追肥 2回分施	整地 .50 2.37 下種 .62 .62 施肥 1.50 — 中耕除草 1.00 — 開引 — 4.37 收穫 — 10.50 小計 .50 5.49 15.49
勞力費	日 50 男 5人49 女 15人49	2.00 1.00 .70	1.00 5.49 10.84	内譯左表の 通り	
小計	21人45		17.33		
合計			25.06		
(差引)		0.14		益	

柿園(富有柿)收支計算 (第八年目)

収入の部				備考	
品名	数量	単価	金額	摘要	
富有柿	上松以上 3520 中竹梅 2070 下花 1750 屑 820	.013 .008 .005 .003	45.76 16.56 8.75 2.45	植付大正14年 收穫11月9日迄 11月23日迄	前年迄の間作肥料のため樹勢徒長 の傾きあるを以て施肥量を節した り 結果過多のため果形小なる傾 きあり年齢 8年目なるも昭和 2年 寒害にて更新せるため 7年位の樹 冠なり
合計	8160		73.52		
支出の部				備考	
品名	数量	単価	金額	摘要	労力内譯
肥料費	灰 20 鶏糞 10 葉灰 12	.30 .70 .80	.60 .70 .96	12月中耕の際 4月施用	作業別 男 女 剪定 1.75 摘果 .50 袋掛 4.12 4.12 施肥 1.37 中耕除草 1.50 9.81 袋取 1.00 薬剤散布 1.50 收穫 14.12 計 24.86 14.12
小計			2.26	間作肥料のため 徒長の傾向ある を以て施肥量を 節減す	
勞力費	男 24人86 女 14人12	1.00 .70	24.86 10.45	内譯左表の 通り	
小計	39人79		35.31		
雜費	袋針 10-000枚 金劑 500枚 各種 100枚	.18 .10	1.80 .50	硫酸銅 180匁 石灰 900匁 カセイ 8匁 硫酸ニコチン 72匁	
小計			4.56		
合計			42.13		
(差引)		31.39		益	

柿園(富有柿)收支計算 (第九年目)

収入の部				備考	
品名	数量	単価	金額	摘要	
富有柿	龜以上 540 松梅 603 花 590 屑 110	1個.04 .025 .015 -.010	21.60 15.07 9.01 1.10	收穫10月20日迄 11月25日迄	前年結果過多の感あり 本年の結 果悪し 樹冠8年目程度なり
合計	1783		46.78		
支出の部				備考	
品名	数量	単価	金額	摘要	労力内譯
肥料費	堆肥 300 肥粕 8 大豆粕 8 過磷酸 6.3 硫酸灰 2 硫酸加里 2	.10 3.18 2.55 1.98 1.18 -.55 7.32	3.00 2.54 2.04 1.87 -.23 1.10 1.46	3月1回施用 同 同 同 同	作業別 男 女 剪定 1.87 1.37 施肥 .50 .37 中耕除草 1.00 8.00 薬剤散布 3.17 3.17 袋掛 — 2.50 收穫 4.50 1.50 計 11.04 16.91
小計			12.24		
勞力費	男 11人04 女 16人91	1.00 .70	11.04 10.87	内譯左表の 通り	
小計	27人95		21.87		
雜費	袋針 2200枚 金 100匁	.18 .12	.40 .12		
小計			4.01	石灰硫酸銅 8升 硫酸銅 400匁 石灰 2匁 カセイ 210匁 硫酸鉛 300匁 ネオトシ 1匁 石鹼 半匁	
合計			4.53		
(差引)		8.14		益	

茶園收支計算 (第八年目反當)

収入の部				備考	
品名	数量	単価	金額	摘要	
1番茶	60	.30	18.00	5月17日摘	
番茶	54	.05	2.70	7月28日刈	
合計	114		20.70		施肥量少き感あり 生葉にて揖斐 郡へ販賣す 2番茶以後は販路な きたため摘採を行はず
支出の部				備考	
品名	数量	単価	金額	摘要	労力内譯
肥料費	石灰 20 安 5 大豆粕 5 過磷酸 2 硫酸加里 1	.35 2.65 1.82 1.28 4.80	.76 1.32 .91 .26 4.80	2月施用 3月施用 配合して10月 施用	作業別 男 女 刈摘 1.00 施肥 .50 1.00 中耕除草 2.25 4.25 收穫 1番茶 25.00 2番茶刈 3.00 計 5.75 30.25
小計			4.80		
勞力費	男 5人75 女 30人25	1.00 .70	5.75 21.17	内譯左表の通 り	
小計	36人00		26.92		
合計			30.59		
(差引)		9.87		損	

茶園收支計算 (第九年目及當)

収入の部

品名	数量	単價	金額	摘要
一番茶生葉	35.1	.37	12.98	5月20日1番茶
二番茶	116.0	.15	17.40	7月10日2番茶
三番茶	86.0	.10	8.60	5月26日番茶刈
計	187.1		38.98	

備考

前年施肥量少き感あり収量少し。
生菜にて販賣す

支出の部

品名	数量	単價	金額	摘要
堆肥	300	.10	3.00	11月施甲
大豆粕	27	2.55	6.88	3月5月2回分施
大硫酸	13.5	3.70	4.99	3,5,7月3回分施
過燐酸	12.6	1.18	1.48	3月5月2回分施
硫酸加里	3.8	7.32	2.78	3月
小計			19.13	
勞力費	人			内譯左表の通り
男	11人99	1.00	11.99	
女	15人57	.70	10.50	
小計		27.86	22.45	
合計			41.62	
(差引)		7.64		損

勞力内譯

作業別	男	女
整枝	3.00	—
施肥	.87	.62
中耕除草	.75	4.00
收穫	—	11.25
1番茶刈	3.00	—
2番茶刈	4.37	—
計	11.99	15.87

發行人 岐阜縣立農事試驗場

岐阜縣本巢郡北方町

印刷人 大野信光

岐阜縣本巢郡北方町

印刷所 大野印刷所

14.24
884

14. 21-884
1200501163876
14-21
f

終